

平成 27 年度中小企業金融実態調査結果概要

平成 27 年 8 月 18 日
富山県商工会連合会

I. 調査目的

県下商工会地区における小規模企業等の経営概況や金融に関する動向等を把握し、中小企業金融の円滑化に資するための基礎資料を得ることを目的として調査を実施した。

II. 調査対象および方法

商工会地区の中小企業（特に小規模事業者）のうち、1, 160 企業を無作為抽出し、商工会の経営指導員の面接により調査を行った。

III. 調査時期および実施期間

調査書記入時点 平成 27 年 7 月 1 日 現在
調査実施期間 平成 27 年 7 月 1 日～7 月 10 日

IV. 回答状況

調査対象企業数 1, 160 社
回答企業数 1, 083 社（回収率 93.4%）

V. 調査結果の概要

ここ 1 年間の売上高は、減少企業が 54.1%で増加企業の 44.6%を上回った。しかし採算面では黒字企業が 36.3%（前回比 3.9 ポイント改善）で赤字企業の 20.6%（前回比 2.7 ポイント減少）を上回り、回復基調が読み取れる。北陸新幹線開業の影響では「良い影響」「少し良い影響」が「悪い影響」を上回ったが、消費税の採算面への影響では 78.6%が「かなり」または「少し」影響ありと回答するなど依然として厳しく、今後の 10～12 月の資金繰り見通しは「楽になる」は 3.3%で「苦しくなる」は 25.6%となり、先行は慎重な見通しが多い。

借入計画では「ある」が減少している。また、国・県・市町村の制度融資の活用は 2.9 ポイント減少、保証協会の利用は 3.0 ポイント減少となり、資金需要はやや弱い。設備投資では、「ものづくり補助金を活用しての計画有り」が 11.4%と 3.8 ポイント増加するなど新しい動きが出ているが、78.9%が「計画なし」としている。金融円滑化法終了後の借入申込みでは、「借りやすくなった」「変わらない」「厳しくなったが融資は受けられた」の合計は 99.6%（5.5 ポイント増加）で、金融機関の支援姿勢は続いている。

最近の諸制度のうち補助金制度について、「すでに活用、今後申請予定」が 23.7%となり、「説明を受けたい」は 15%と高水準である。

項目別の回答は次の通りである。

今回の特徴点（前回 26 年 7 月調査時点との比較）

1. 企業の営業の状況について

- (1) 年間売上高については、「減少した企業」は 5.3 ポイント増加の 54.1%で、「増加した企業」の割合の 44.6%を上回った。採算状況については、黒字企業が 3.9 ポイント増加の 36.3%に対し、赤字企業は 2.7 ポイント減少の 20.6%で、黒字企業が赤字企業を上回った。
- (2) 今後の売上高予想でも、「減少する」と回答した割合は 54%で、増加すると回答した割合は 44.9%を上回り、厳しい見方が多い。業種別では小売業、卸売業、建設業、運輸業の順で減少する割合が高くなっている。
- (3) 10～12月の資金繰り予想では、「大変苦しくなる」と、「苦しくなる」の合計は 28.5%で、「楽になる」の 3.3%を大きく上回った。苦しくなる業種では、運輸業、小売業が多い。苦しくなる要因としての複数回答では、「売上高予定額未達」と「利益が予定に達しない」の割合が圧倒的に高い。「経費が増大している」は 24.7%で 3.6 ポイント増加した。
- (4) ここ 1 年間に、元請等との取引条件に変化があると回答した企業は 8 ポイント減少の 18.9%で、「あまり変化はなかった」が 77.9%(7.9 ポイント増)を占めた。
- (5) 円安の影響では「悪い影響」が 27.5%で「良い影響」の 3.2%を大幅に上回った。「良い影響」は運輸業、「悪い影響」は製造業が多かった。
- (6) 消費税の採算への影響は「かなり影響がある」と「少し影響がある」の合計が 78.6%で「ほとんど影響がない」の 20.2%を大きく上回った。
- (7) 北陸新幹線開業の影響では「良い影響」と「少し良い影響」が 14.5%となり、「悪い影響」の 1.6%を上回ったが、「変わらない」が 83.1%を占めた。

2. 金融機関との取引及び借入状況について

- (1) 昨年 12 月末と比べ、借入額では「減った」が 47.8%で「増えた」の 25.4%を上回り減少傾向が続いている。「借入なし」が 4.2 ポイント増加の 23.3%となり、5 年連続の増加となった。
- (2) 最近 6 ヶ月間の借入申し込みを「した」は 37.2%となった。
現在の借入金利については、「借入金利 2%未満」の層は、3.2 ポイント増加の 69.9%となった。3%超は 0.8 ポイント減少し、借入金利の低下傾向は続いている。借入に対する満足度については、満足と回答した企業の割合は 94.4%で前回対比で 2.2 ポイント増加し、不満・謝絶の回答はなかった。

- (3) 「貸し渋り」の有無は、「ある」が 5.6 ポイント減少の 6.7%で 5 年連続して低下した。「貸し渋り」の複数回答の内容は「金額査定減」「追加融資不可」「保証協会の付保」の順に多い。
- (4) 借りにくい、借りられない理由では、「借入残高が多い」「業績が思わしくない」の 2 項目が主な要因となっている。
- (5) 借入返済の条件変更に対しては、「希望する」企業が 0.3 ポイント増加の 12.9%で、希望する条件変更は「元金返済の一時据置（猶予）」は減少したが、「返済期間の延長」「長期資金への切換」は増加した。条件変更の難易度では、「容易である」と「交渉次第で何とかなる」で 4.0 ポイント増加の 72.6%となる。「難しい」は 4.9 ポイント減少の 17.0%で、難易度は低下している。
- (6) 今後の借入計画（1 年間）では、「ある」と回答した企業は 1.9 ポイント減少（17.8%）し、「ない」と回答した企業は 4.0 ポイント増加（80.8%）した。うち設備資金では、「工場・店舗等の補修・改修」「製造機器・ラインの増設」「土地建物の取得」の本格的投資が多い。その他に「新事業取組みの設備資金」が増加している。
- (7) 借入時の重視事項では、「金利」「条件」の直接条件が重視されているが、「日頃のつきあい」や「経営上の相談が得られる」の間接条件も増加している。
- (8) 借入を考える場合の懸念材料においては、「借入後の返済力」「業況の先行見通し難」の 2 項目は引続き高い項目となっている。後継者難が 4.9 ポイント増加の 8.3%と急増した。

3. 融資制度について

- (1) 国・県・市町村の融資制度の過去 1 年以内の利用状況は、前回調査と比べると「利用がある」は 29.5%、「利用がない」は 2.9 ポイント増加の 69.3%となった。融資制度について、利子補給制度、後継者応援制度、借換え制度の充実を求める意見があった。
- (2) 国や県、市町村の融資制度は、「経営の役に立っている」と回答した企業は 98.8%を占めた。「利用しなかった理由」として、「利用する必要がなかった」が 64.8%で最も高い割合である。平成 27 年 4 月からの金利 2%の引き下げは「知っていた」は 14.8%だった。
- (3) マル経融資の制度改正のメリットについては、「返済期間の延長」は 38.4%、「融資限度額の増大」は 28.5%がメリットと評価している。
- (4) 信用保証協会の借入利用は前回比 3.0 ポイント減少の 25.0%だった。「円滑に融資が受けられた」と「少し難しかったが受けられた」の合計は 94.8%の高い水準だった。

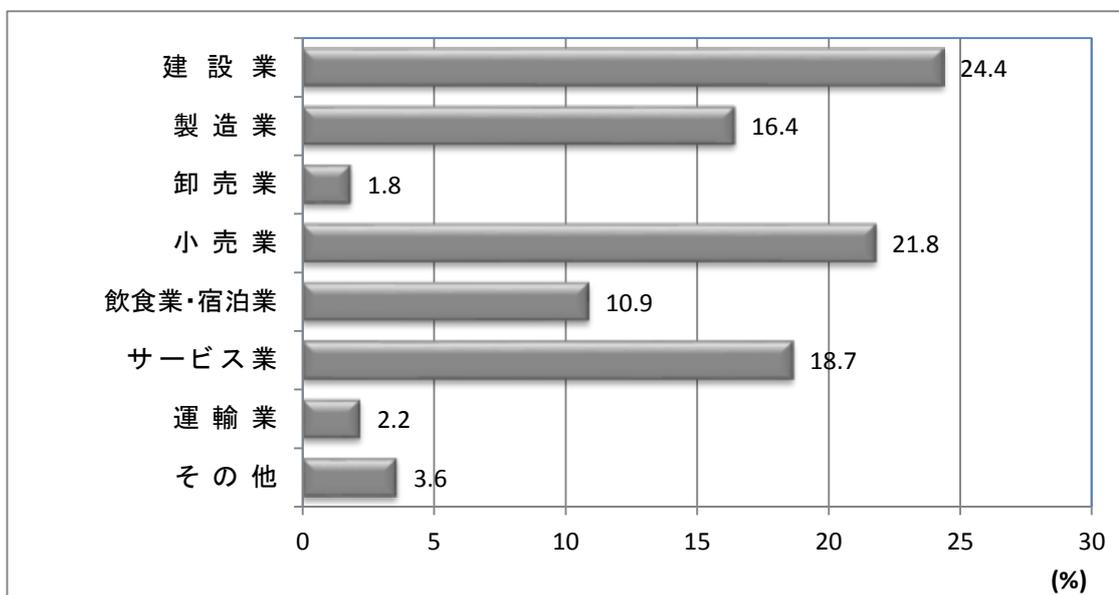
- (5) 保証協会の融資態度の変化については、「変わらない」は83.4%、「審査が厳しくなった」が3.8ポイント減少の5.5%となり、「意見交換」「対応が丁寧」も合計で7.0%となった。
保証料が高いという声が多かった。

4. 最近の諸制度について

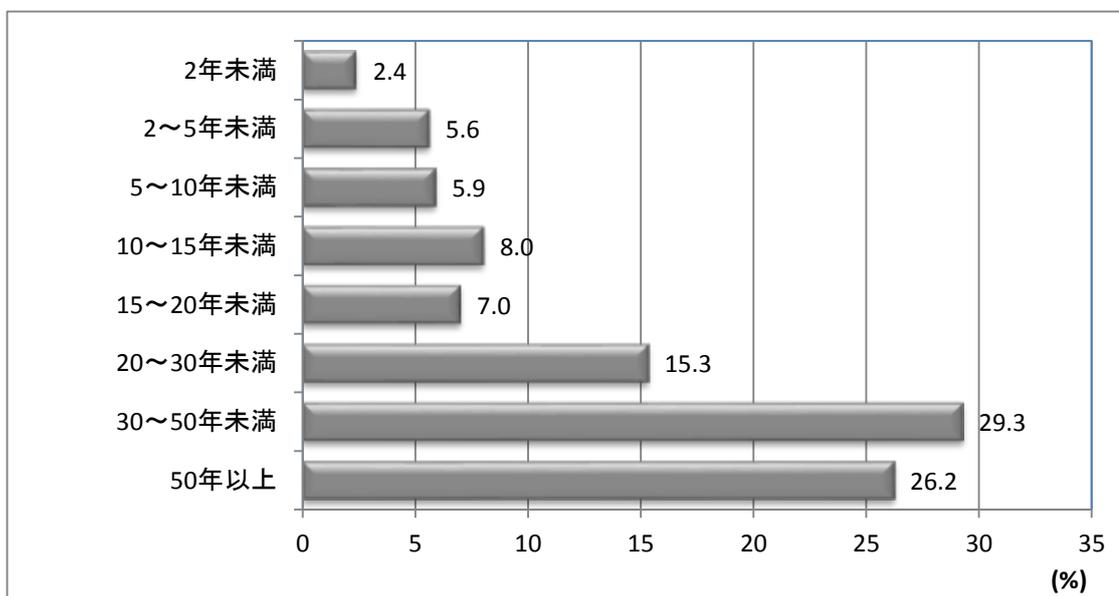
- (1) ビジネス創造支援事業の専門家派遣では「相談したい」「説明を受けたい」が1.3ポイント増加の13.5%となったが、「関心はない」も81.9%と高かった。
- (2) 金融円滑化法終了後に「貸付条件の変更や新規融資」を申し込んだのは全体の18.0%だったが、審査については「借りやすくなった」「変わらない」「厳しくなったが変更や融資を受けられた」の合計は99.6%を占めた。
- (3) 経営改善計画の策定支援制度について、「検討したい」「説明を受けたい」が12.1%となった。「特に関心はない」も80.1%と高かった。
- (4) 経営者保証では、金融機関窓口の説明は63.2%が説明ありと回答。融資を申し込んだ先では、「保証しなかった」が53.8%で、「保証した」の38.1%を上回った。保証に依存しない融資はすすんでいる。
- (5) 最近の補助金制度については、「すでに活用している」「今後、申請予定」の合計が23.7%となった。「説明を受けたい」は、15%と高水準である。

1 回答企業の概要

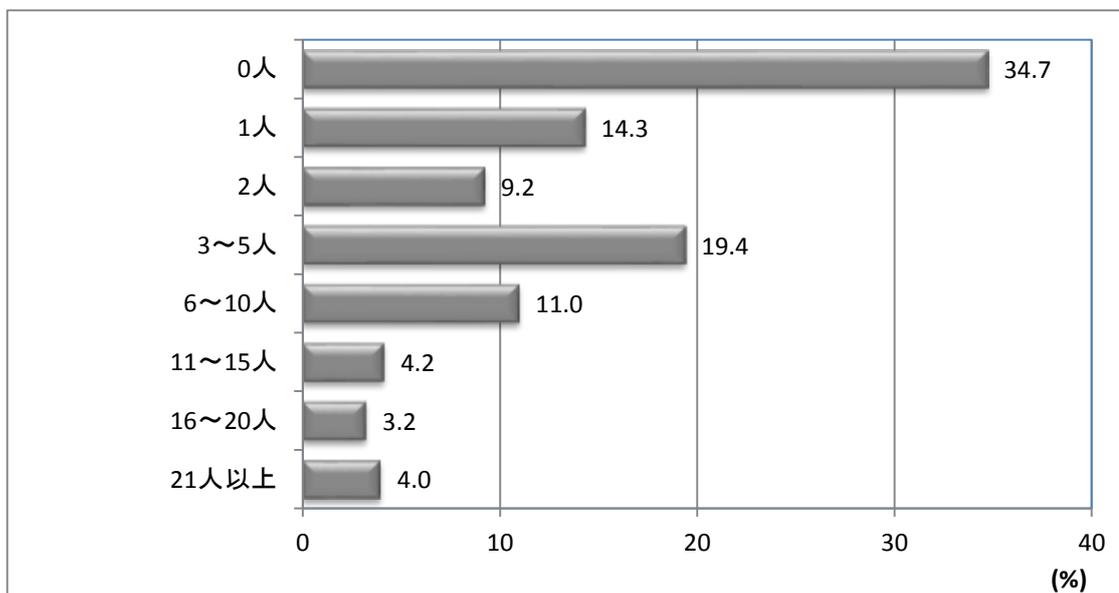
(1) 業種



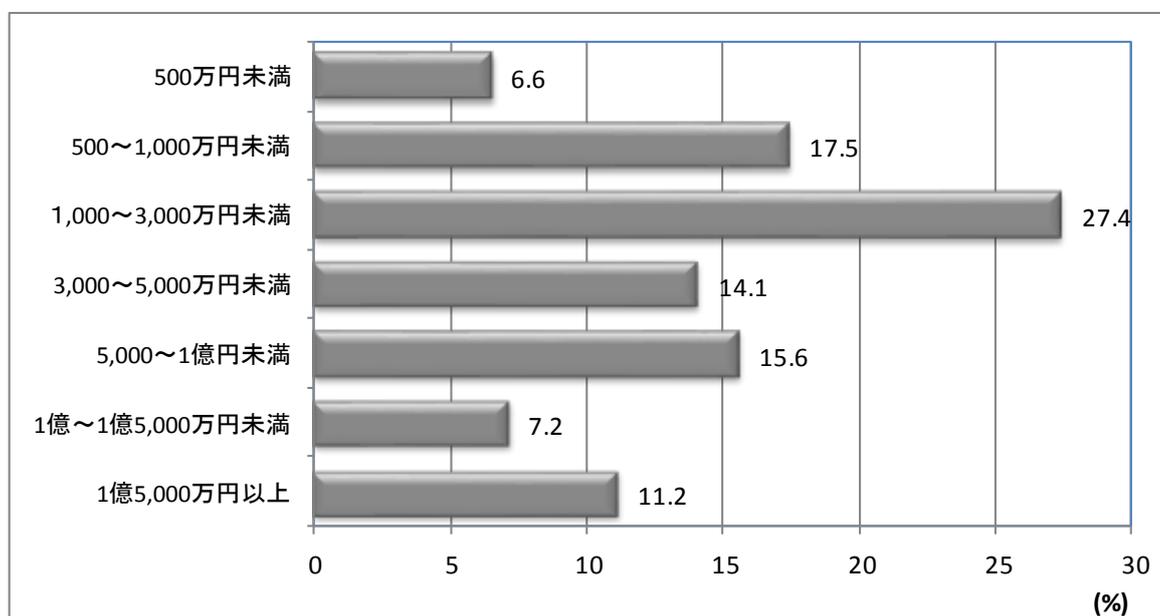
(2) 創業してから何年



(3) 常用従業員



(4) 年間売上高

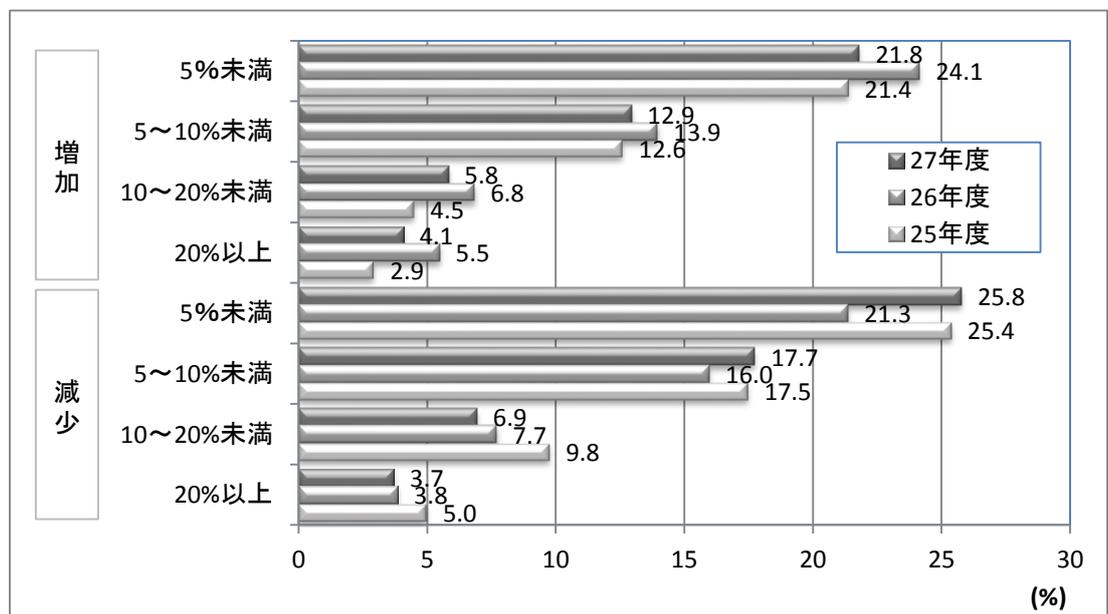


2 営業の状況

(1) 年間売上高の増減率（対前年同期比）

年間売上減少は全体で 54.1% となり前回調査に比べ 5.3 ポイント増加した。業種別にみると、小売業、卸売業、飲食・宿泊業の順で減少率が高い。従業員規模では、0 人、1 人、の小規模で減少率が高くなっている。

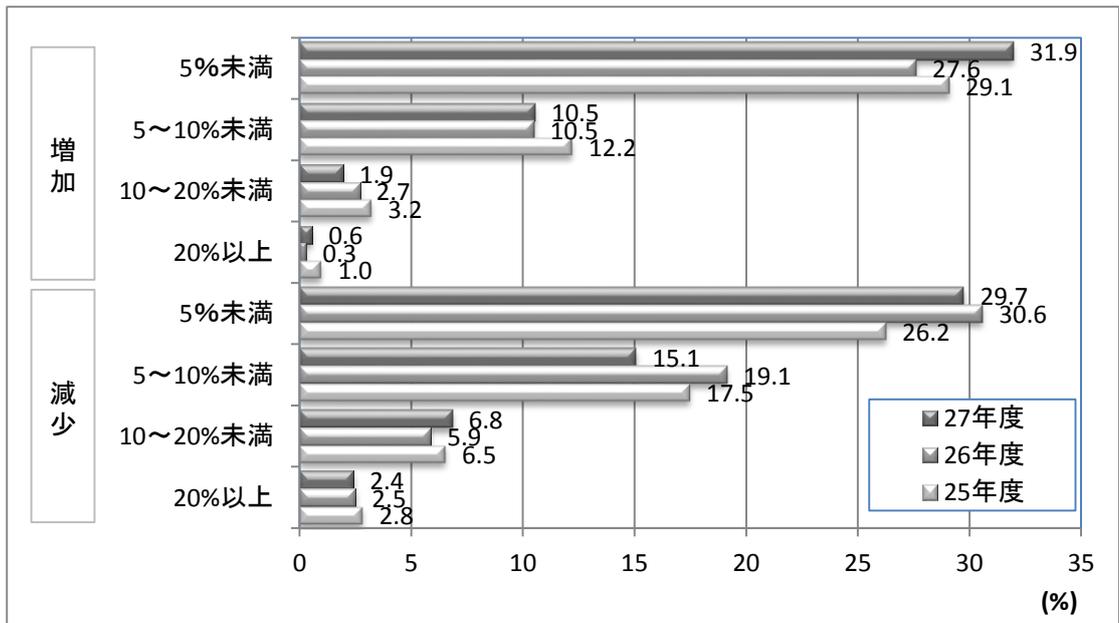
売上増加企業は、前回調査より 5.7 ポイント減少し全体で 44.6% となり、売上減少企業を下回った。業種別に見ると、製造業で 55.0%、建設業で 52.6% が増加と回答。さらに規模別では、従業員規模 21 人以上の 65.1% が増加と回答。



(2) 今後の売上高予想

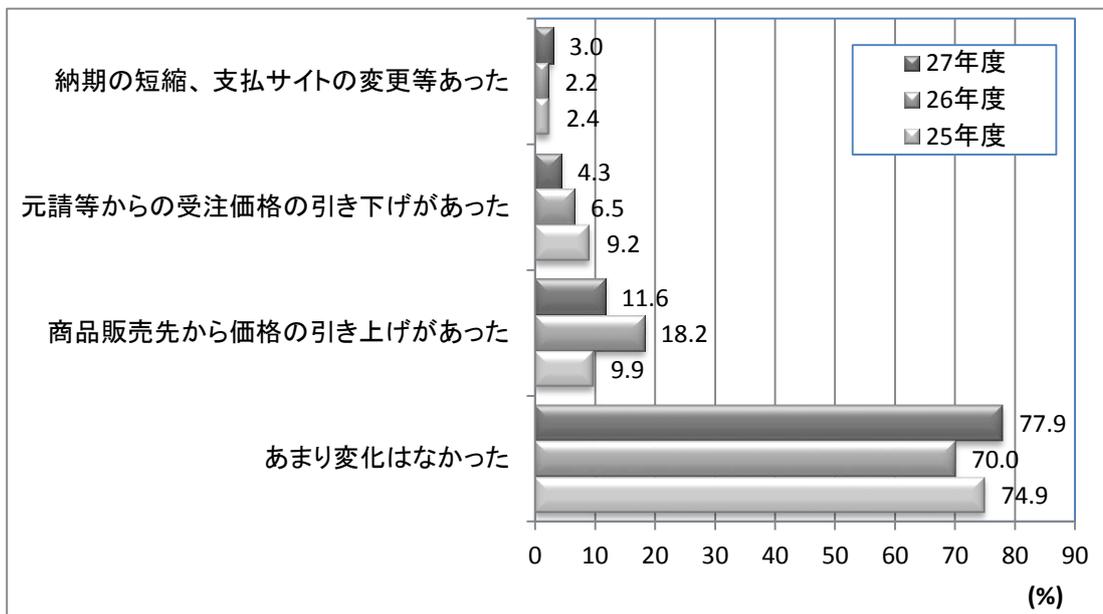
今後の景気の先行きを踏まえた売上高予想を聞いた質問に対して、減少すると回答した割合は全体の 54% 占め前回より 4.1% 減少した。

業種別に見ると、小売業で 72.1%、卸売業 60%、建設業で 54.9%、運輸業で 54.2% の順で減少すると回答している。売上高が増加すると回答した割合は全体の 44.9% で前回比 3.8 ポイント増加した。これを業種別に見ると製造業で 57.3%、規模別では、21 人以上で 62.8% が増加を予想している。



(3) 取引条件の変更状況

ここ1年間の商品販売先、工事元請先、製造発注元等との取引条件の変更状況では77.9%があまり変化はなかったと回答。一方で18.9%の企業がなんらかの取引条件の変更を強いられていると回答、前回比較では8.0ポイント減少した。業種別では建設業、製造業、運輸業の順で高かった。



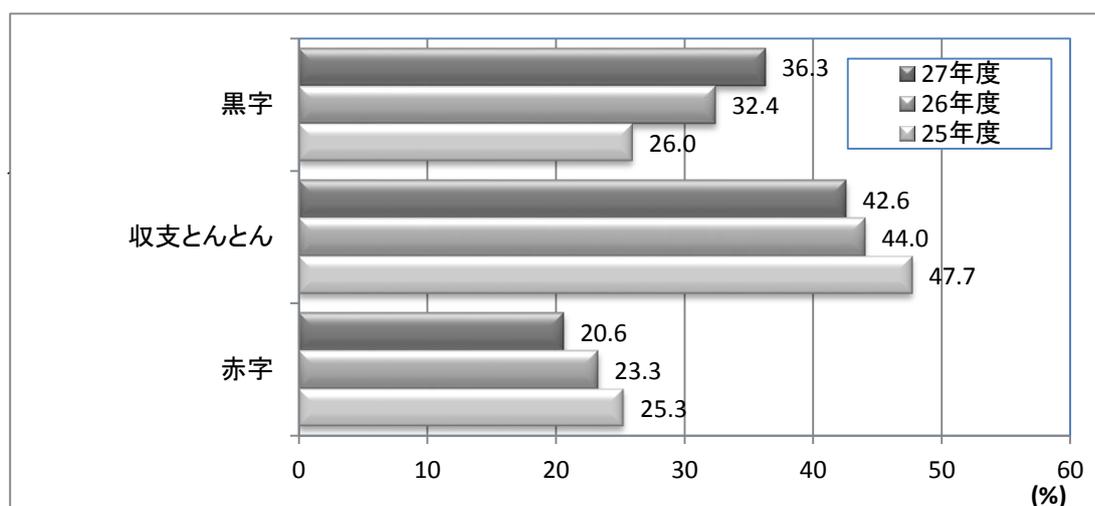
(4) 採算の状況

ア、現在の採算状況

黒字と回答した割合は 36.3%と前回から 3.9 ポイント増加した。赤字と回答した割合は 20.6%と前回から 2.7 ポイント減少し、収支とんとは前回より 1.4 ポイント減少した。

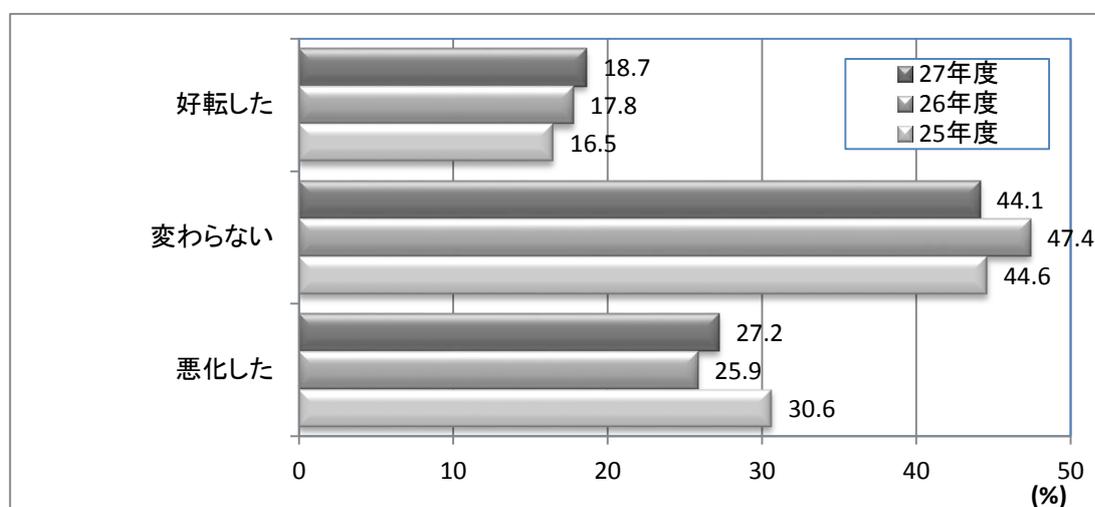
黒字企業を業種別にみると建設業で高く、赤字企業では小売業、卸売業、運輸業、の順になっている。

また従業員別での黒字企業は、21 人以上、11～15 人、の順で比率が高く、比較的従業員の多い規模で黒字企業の割合が高い。



イ、採算状況（対前回比較）

採算状況を前回と比較すると、「好転した」が 0.9 ポイント増加した。「悪化した」が 1.3 ポイント増加した。変わらないは 3.3 ポイント減少した。業種別では、製造業、建設業の「好転した」比率が高くなっている。

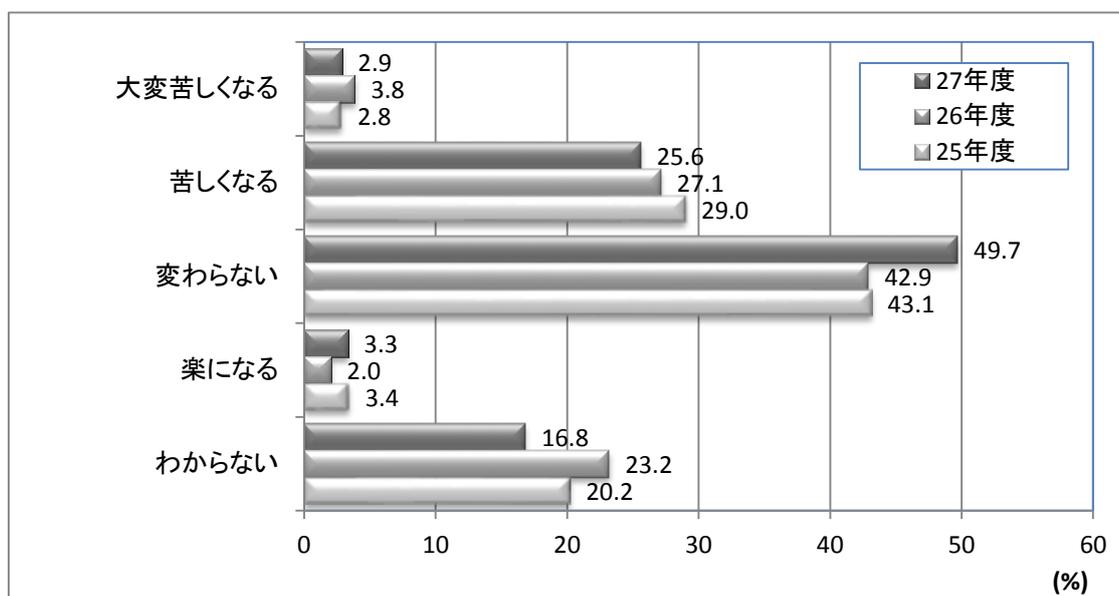


(5) 資金繰り状況

ア、今年10～12月の資金繰り予想

「大変苦しくなる」と「苦しくなる」の合計では、前回より2.4ポイント減少し28.5%となる。「変わらない」が6.8ポイント増加して49.7%。「楽になる」は前回より1.3ポイント増加の3.3%にとどまった。わからないと回答する割合が6.4ポイント減少した。

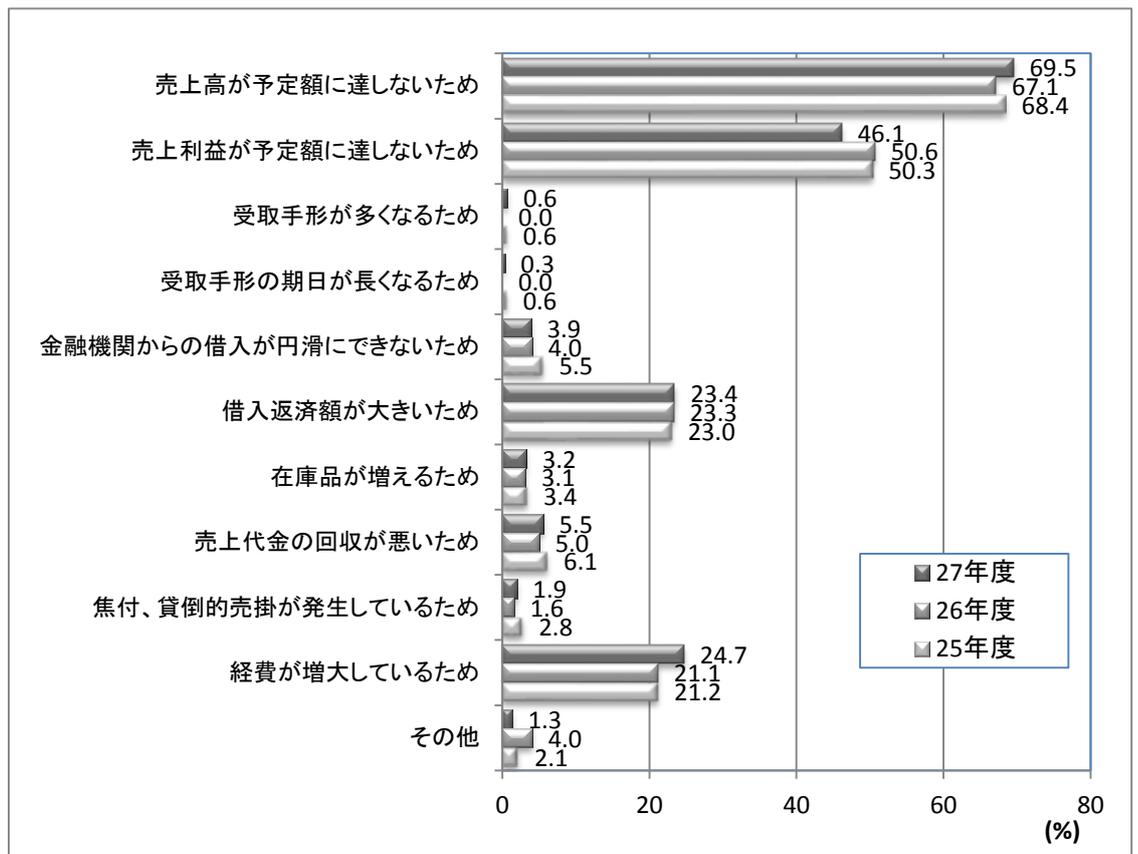
「大変苦しくなる」「苦しくなる」を業種別で見ると、運輸業、小売業の順で高い。



イ、資金繰りが苦しくなる原因（2つ以内で回答）

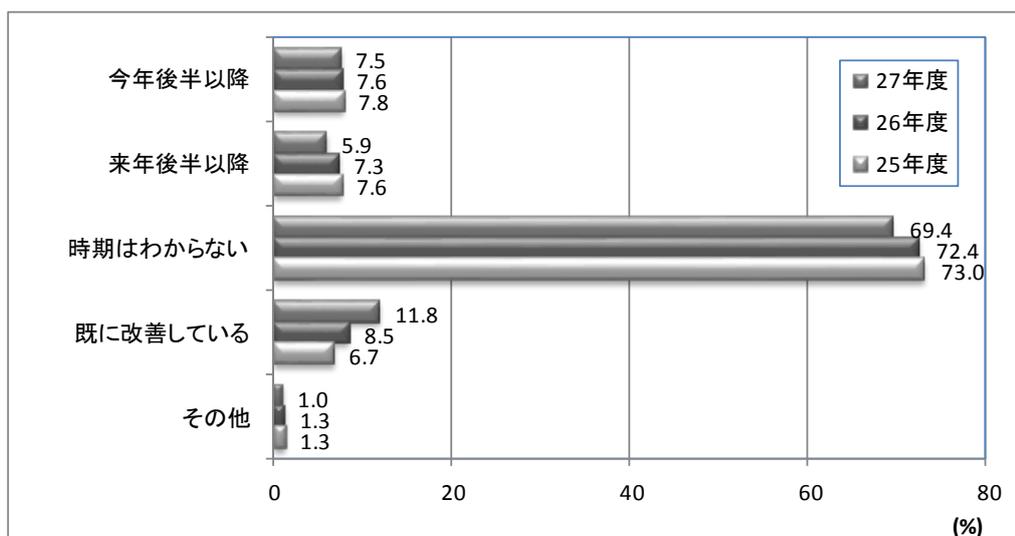
「苦しくなる」理由は、「売上が予定額に達しない」と「売上利益が予定額に達しない」の割合が圧倒的に高い。「経費の増大」が24.7%で3.6ポイント増加した。

「借入返済額が大きい」は23.4%で0.1ポイント増加した。その他の原因では、消費税を転嫁できないが挙げられている。



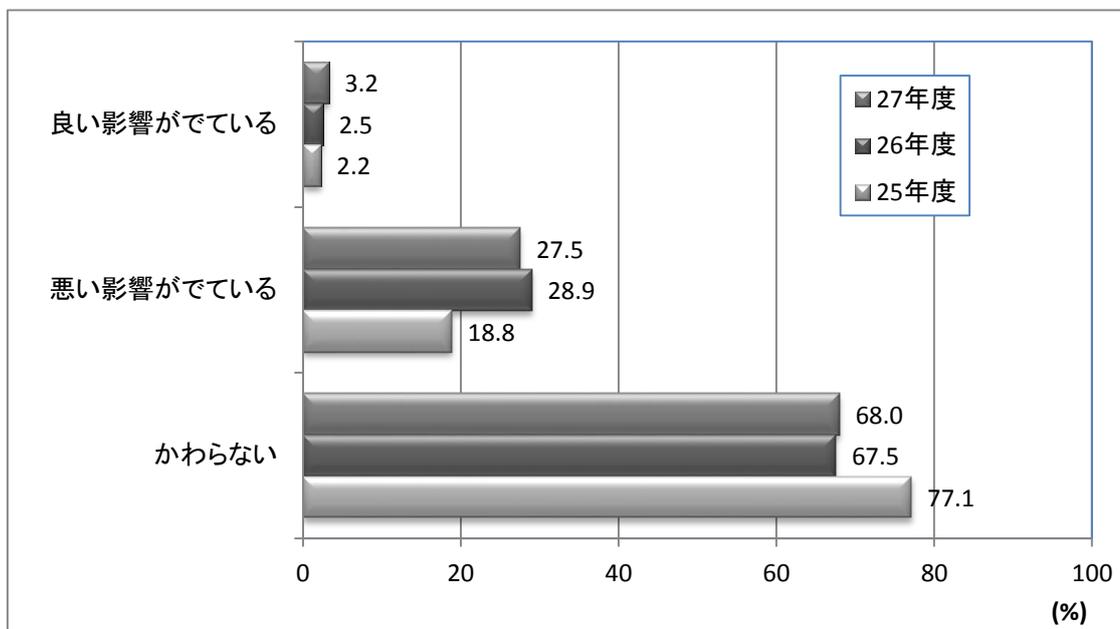
ウ、資金繰りが改善する時期

改善する時期は、「時期がわからない」が69.4%を占めた。業種別では、ほぼ全業種で改善する時期がわからないと回答している。



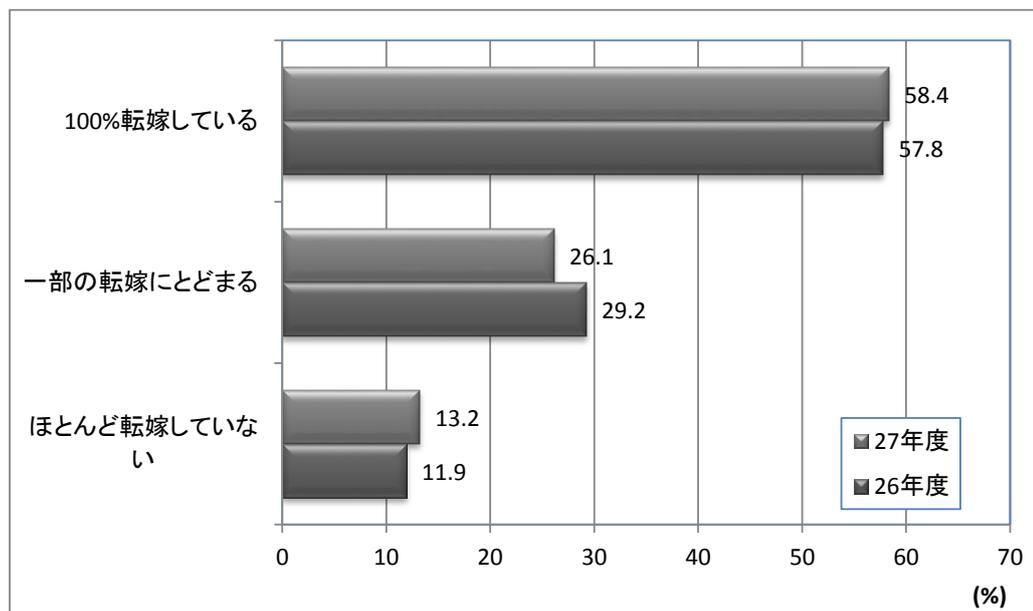
エ、円安の影響について

「悪い影響」が27.5%で「良い影響」の3.2%を大幅に上回った。業種別では、良い影響は運輸業、悪い影響は製造業が高かった。



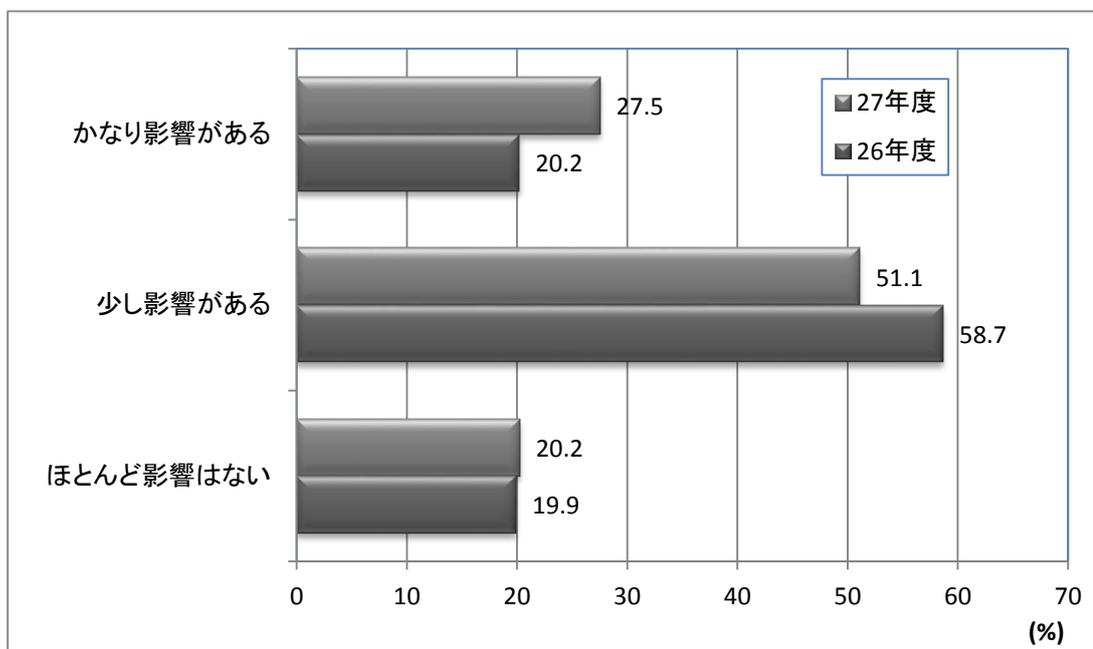
オ、消費税増税の転嫁の状況について

「一部の転嫁にとどまる」と「ほとんど転嫁していない」の合計は39.3%と高水準で、業種では飲食・宿泊業が多い。100%転嫁企業の業種別では、運輸業、製造業が多い。従業員規模別では、前年は小規模企業が苦戦していたが、各層が平均値(58.4%)に近くなった。



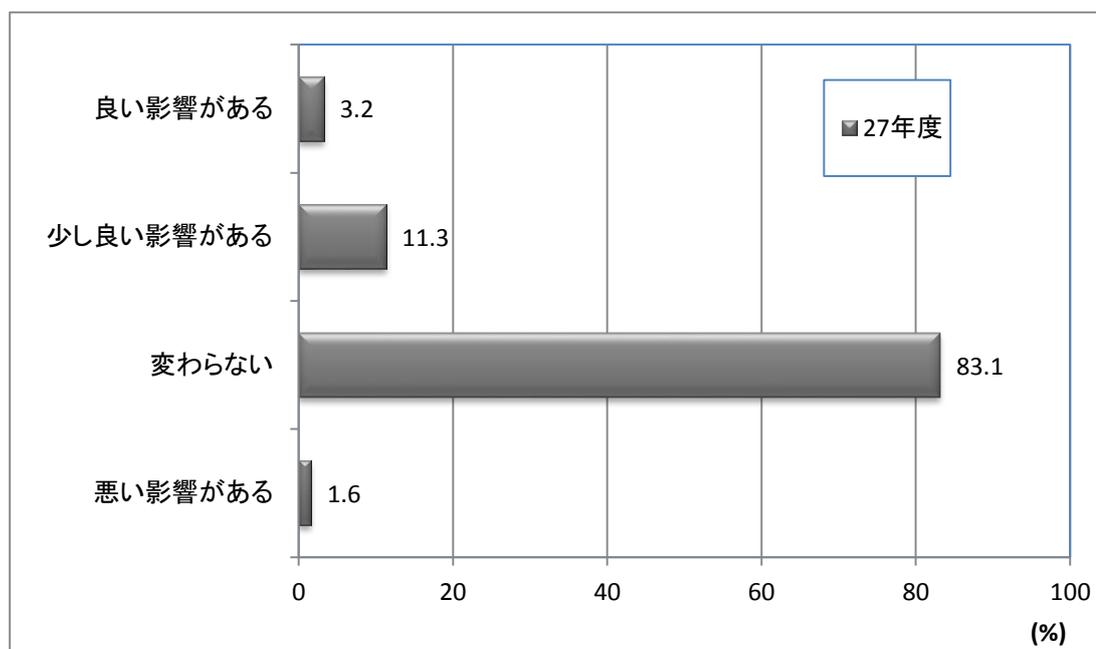
オー1 消費税増税の採算への影響について

「かなり影響がある」と「少し影響がある」の合計は78.6%で、ほぼ前回同水準となった。「ほとんど影響はない」は20.2%に止まった。



カ、 北陸新幹線開業の影響について

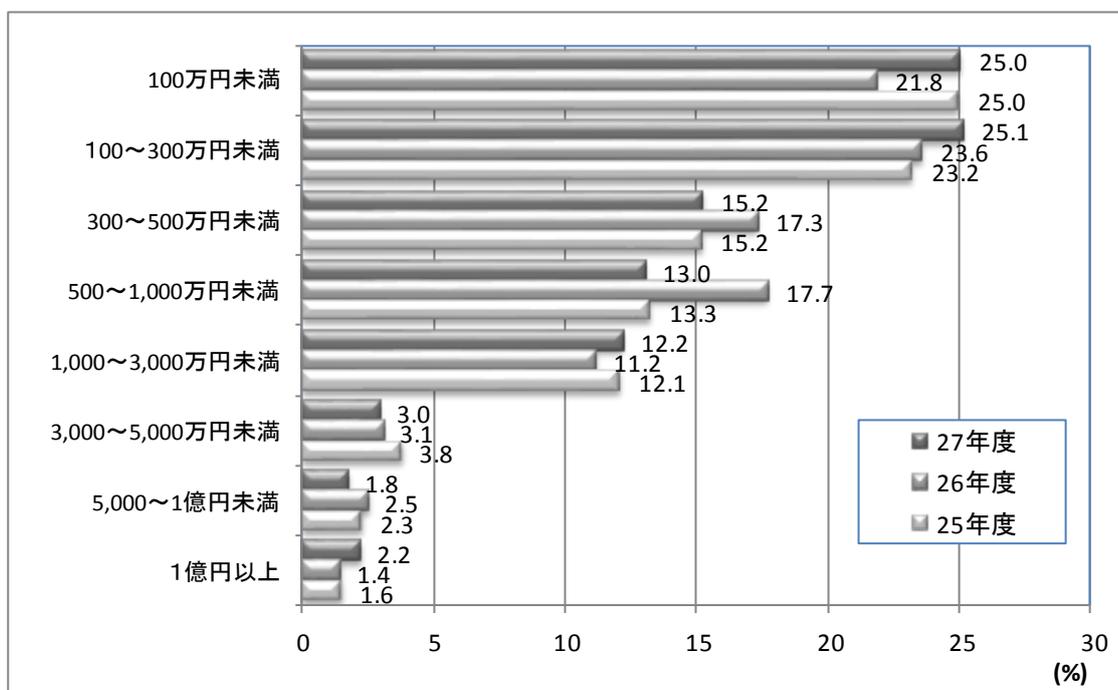
「変わらない」が83.1%にのびた。「よい影響」と「少し良い影響」の合計が14.5%で「悪い影響」の1.6%を上回った。



3 金融機関との取引状況 等

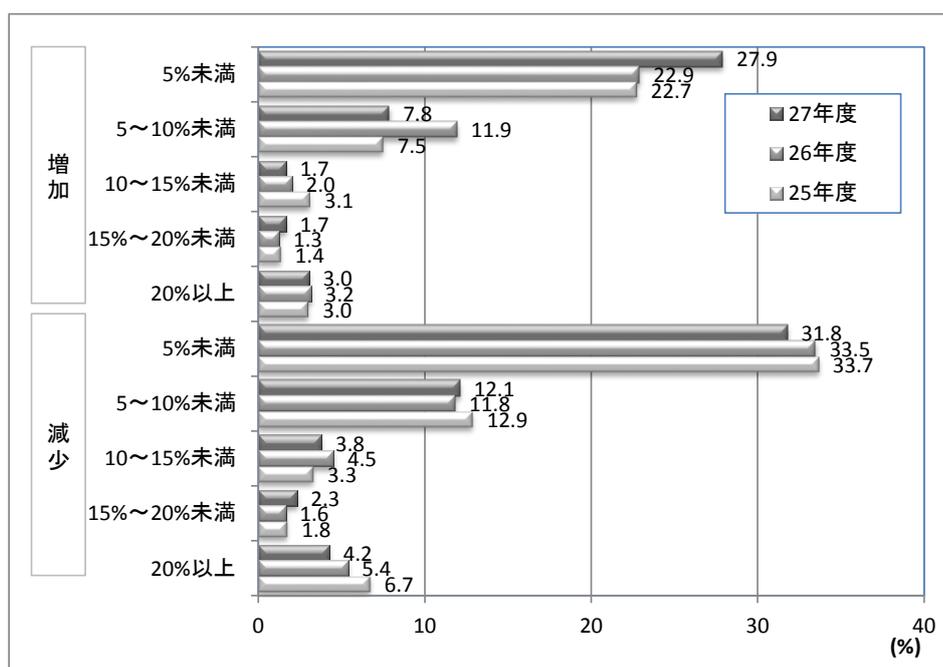
(1) 本年6月末預金高はどれくらいありましたか

前年と比較すると、500万円未満の割合が65.3%で2.6ポイント増加し、500万円超が32.2%で3.7ポイント減少している。



(2) 昨年の6月と比べ預金は増加しましたか、それとも減少しましたか。

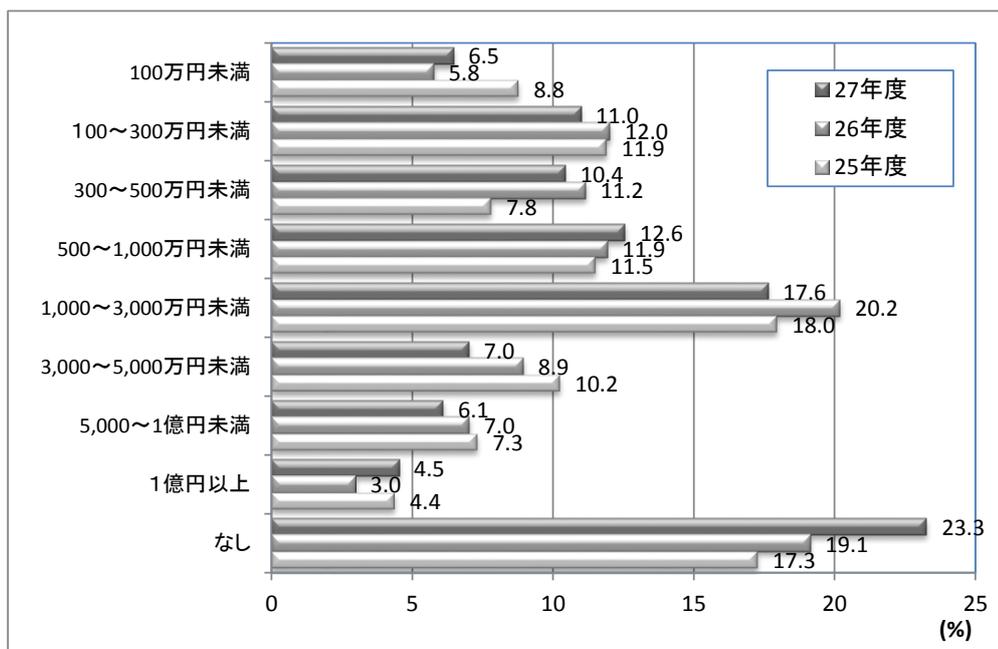
「増加した」企業の割合は0.8ポイント増加の42.1%。「減少した」企業は2.6ポイント減少の54.2%。



(3) 今年6月末の借入額

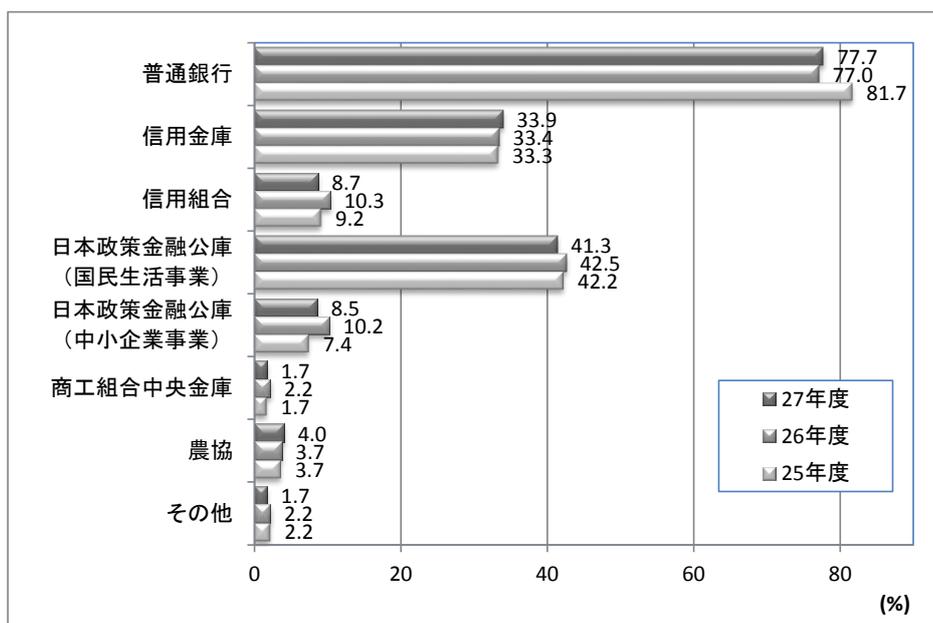
「借入なし」は4.2ポイント増加の23.3%となり過去5年連続で増加している。業種別では小売業、サービス業、飲食・宿泊業の順に多い。

借入1,000万円未満は0.4ポイント減少の40.5%、借入3,000万円以上は1.3ポイント減少で、各層が減少している。



(4) 現在の借入先（多い順に3つ回答）

前回調査と比べ、普通銀行が0.7ポイント増加し77.7%、日本政策金融公庫（国民生活事業）が1.2ポイント減少し41.3%。信用金庫が0.5ポイント増加している。

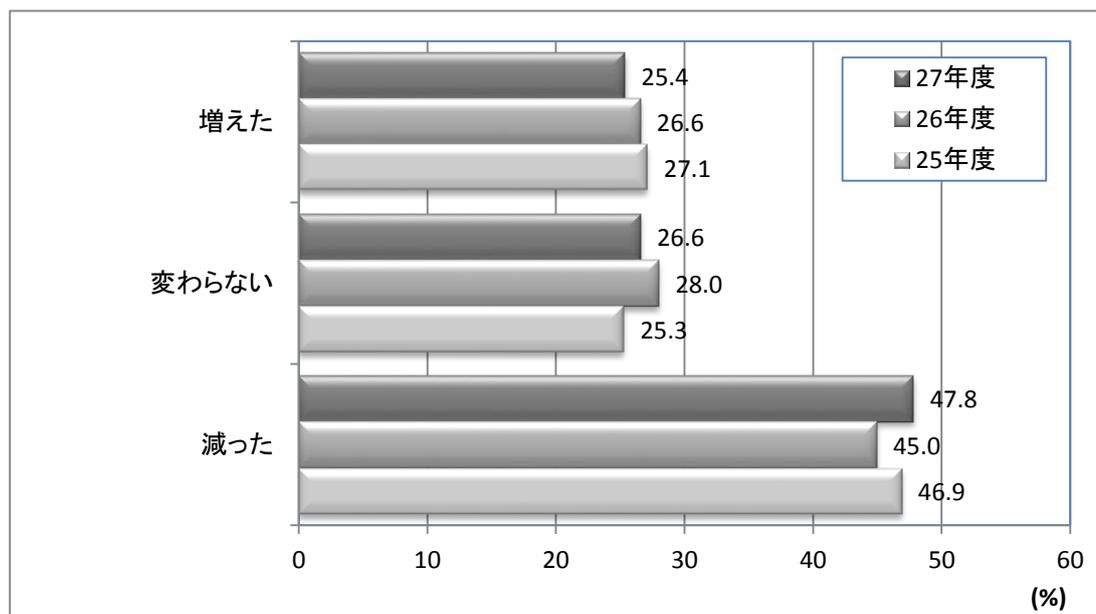


(5) 借入額は（昨年12月頃に比べて）

「増えた」25.4%、「減った」47.8%、「変わらない」26.6%となり、「増えた」が1.2ポイント減少、「減った」が2.8ポイント増加した。「変わらない」は1.4ポイント減少した。

「増えた」企業の割合は、業種では運輸業、製造業の順になっている。

「減った」企業の割合は、卸売業、サービスの順になっている。

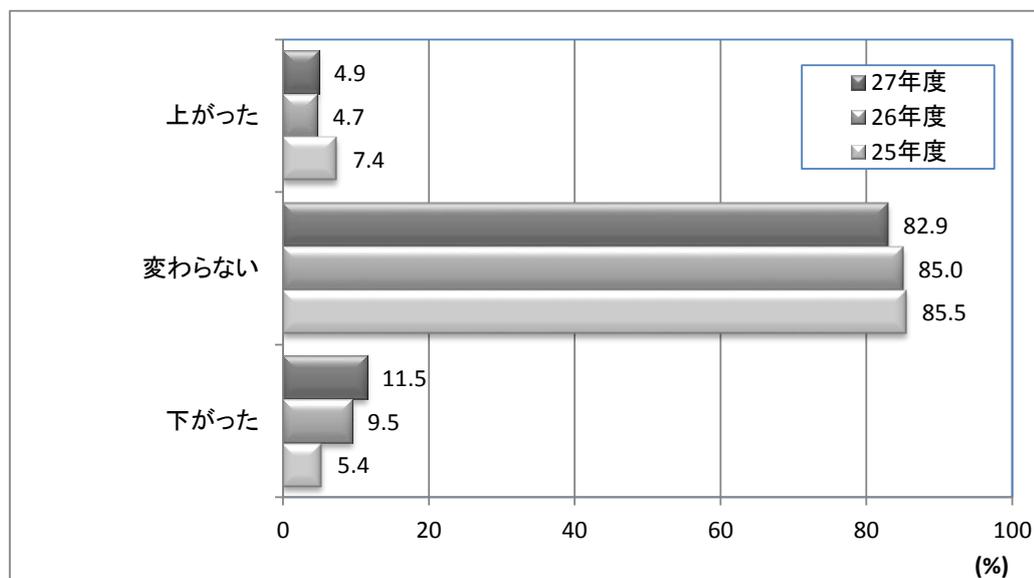


(6) 金利は（昨年12月頃に比べて）

「上がった」割合が0.2ポイント増加し、「下がった」は2.0ポイント増加した。

また、「変わらない」が2.1ポイント減少し82.9%となる。

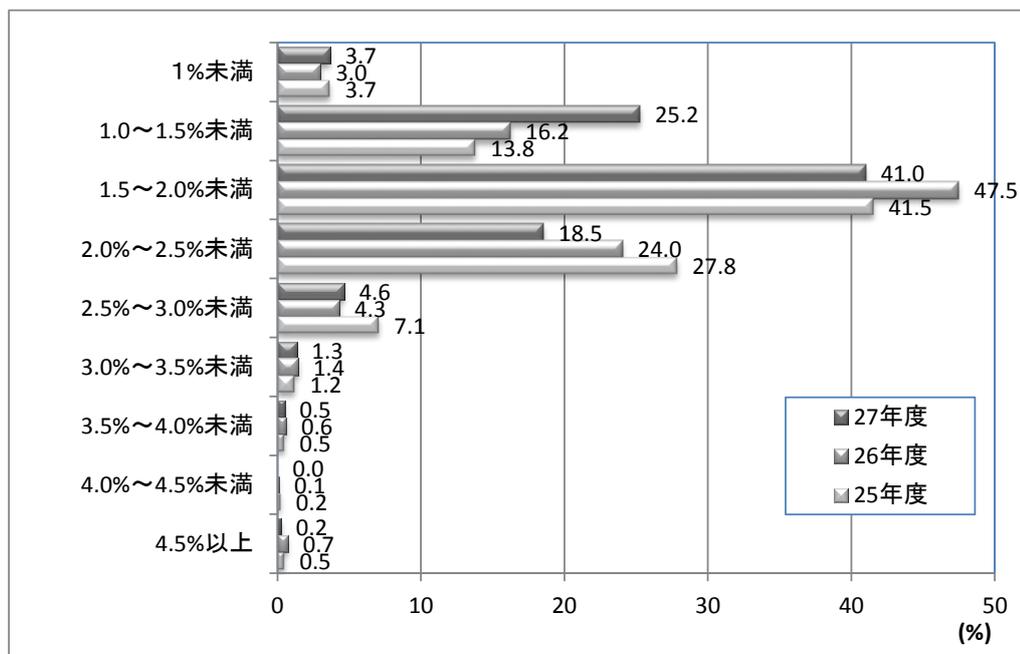
業種では、「上がった」企業の割合は運輸業が10%を超えた。



(7) 現在の借入金利（平均）

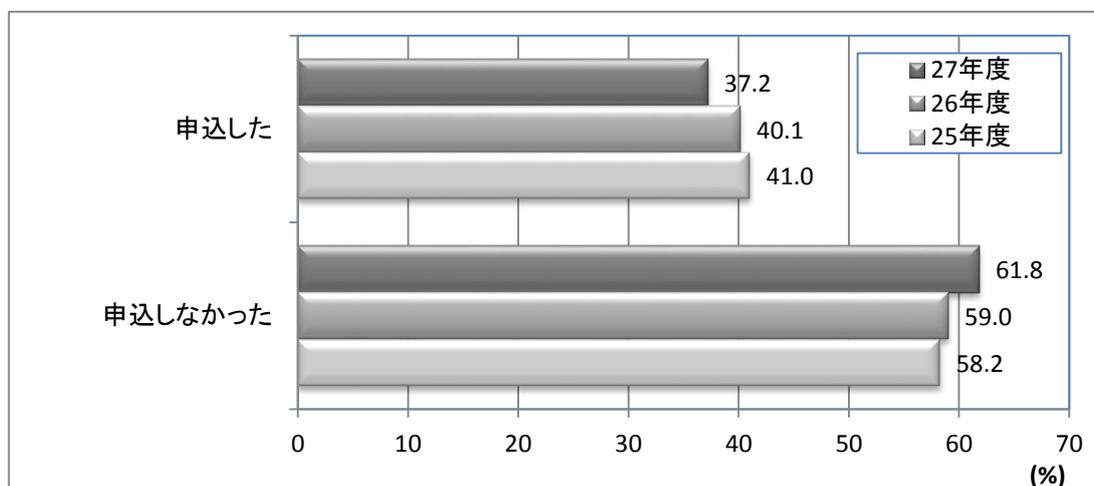
平均金利は、「1.5%～2.0%未満」が最も多い。前年は「1.5%～2.0%未満」「2.0～2.5 未満」が多い順だったが合計で 12 ポイント減少し、「1.0～1.5%未満」が 9 ポイント増加、平均金利は、中心が下方に移行している。

3.0%以上の借入金利割合が前回比 0.8 ポイント減少した。



(8) 最近6ヶ月間の借入申込（借入申込実績）

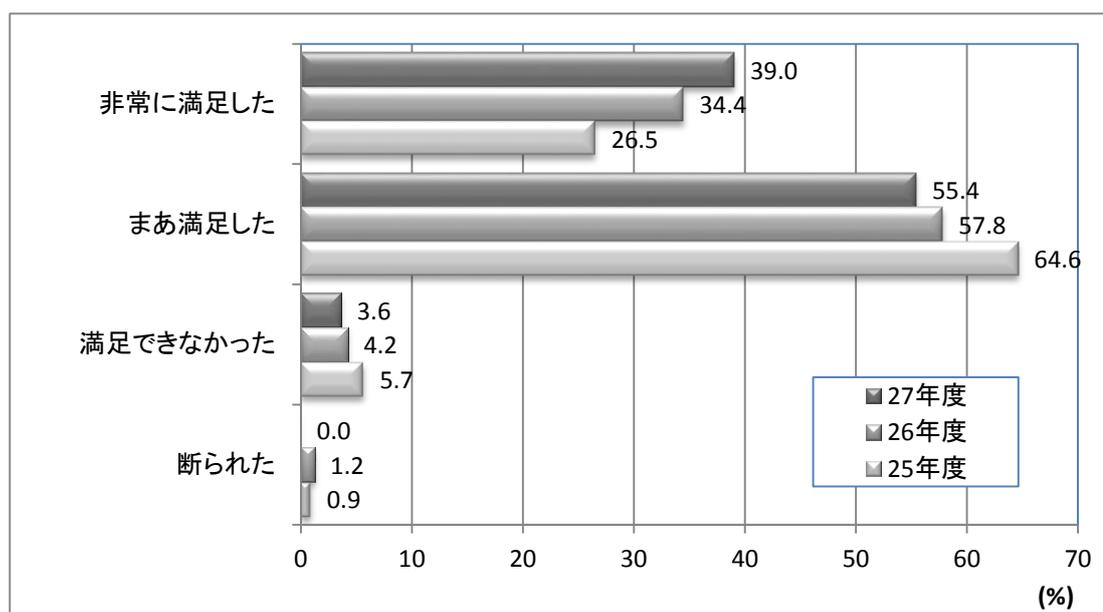
「申込した」割合は前回比 2.9 ポイント減少の 37.2%だった。業種別では製造業、建設業の順で 40%以上の割合で借入申込をしたと回答。「申込しなかった」は 2.8 ポイント増加し、業種ではサービス業、運送業、卸売業、小売業、飲食・宿泊業の順で 60%以上が借入申込をしなかったと回答。



(9) 借入の満足度

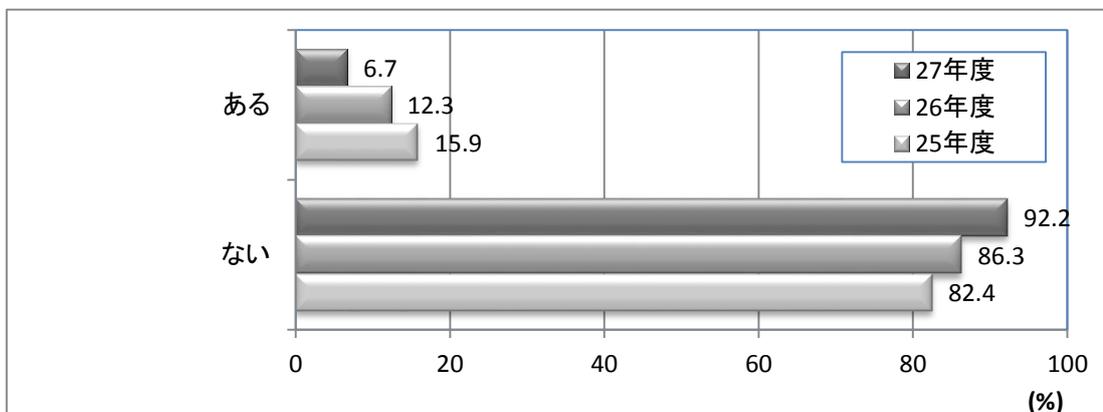
「非常に満足」、「まあ満足」合計で 2.2 ポイント増加の 94.4%。「満足できなかった」は 0.6 ポイント減少し、23 年度以降 5 年連続して低下した。

「非常に満足」「まあ満足」と回答した業種では、運輸業、製造業、飲食・宿泊業の順で割合が高く、「不満」はサービス業、小売業が 7%を超えた。



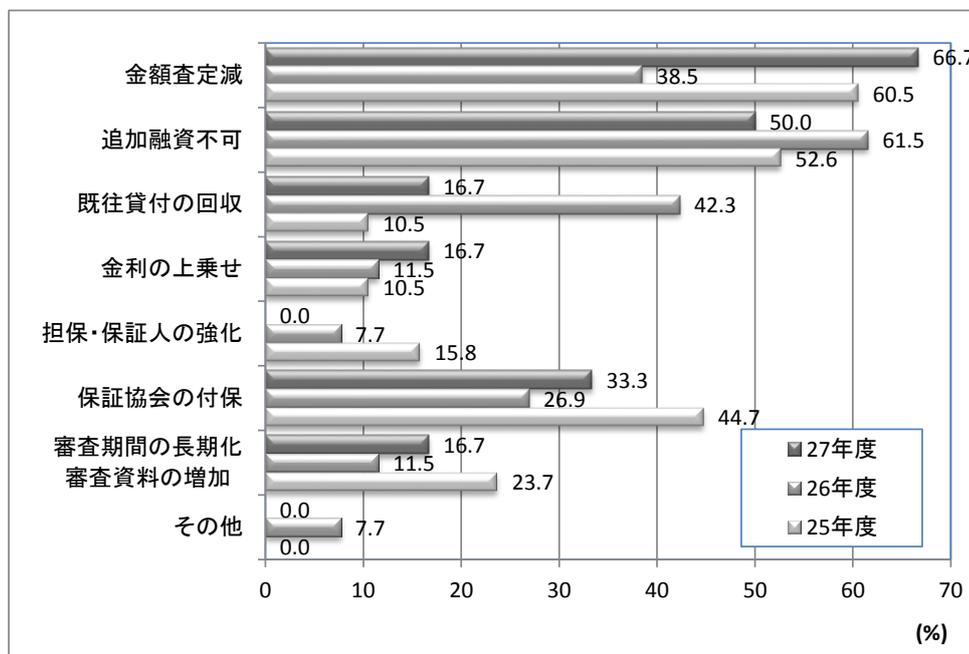
(10) 「貸し渋り」の有無

「ある」が前回より 5.6 ポイント減少の 6.7%。「ない」は 5.9 ポイント増加の 92.2%となった。「ある」を業種別でみると、サービス業、小売業の順で割合が高い。



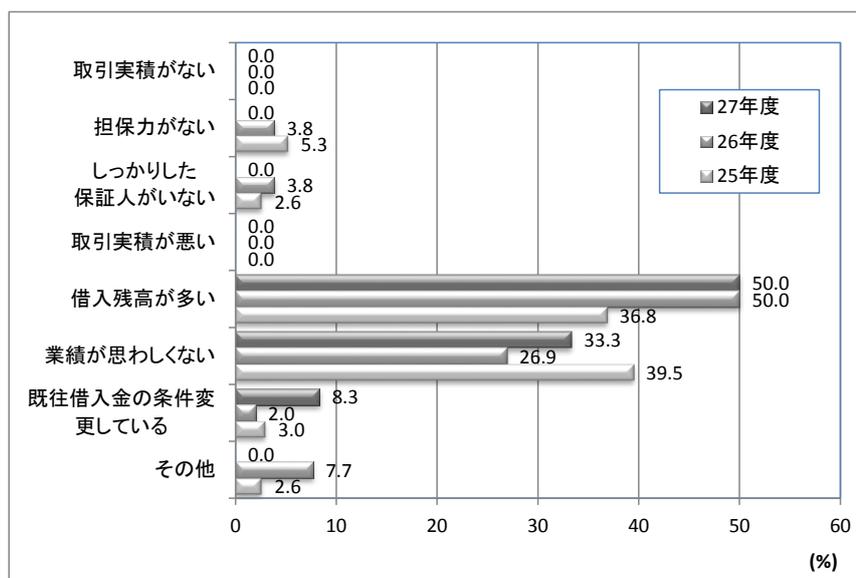
(11) 「貸し渋り」の内容 (3つの複数回答)

「金額査定減」、「追加融資不可」、「保証協会の付保」が多かった。
「既往貸付の回収」が大幅に減少した。「担保・保証人の強化」は0となった。



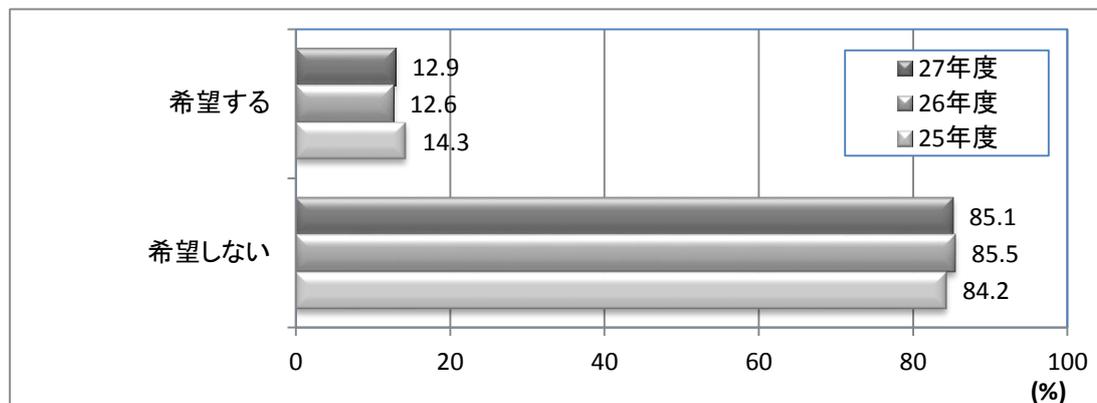
(12) 借りにくい、借りられない理由 (回答数構成比)

「業績が思わしくない」は6.4ポイント増加し33.3%、「借入残高が多い」が前年同数の50%となり、2項目が主な要因となっている。その他では、既往借入金の条件変更が8.3%と高い。



(13) 借入返済の条件変更（希望の有無）

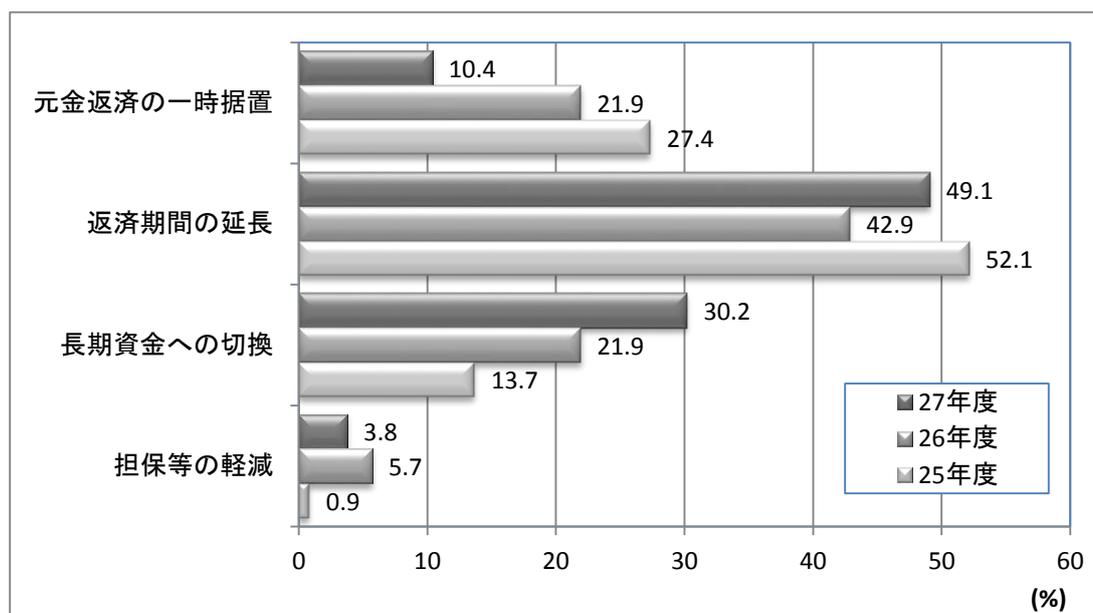
条件変更を「希望する」企業の割合が、前回調査と比べ0.3ポイント増加し、「希望しない」は、0.4ポイント減少の85.1%となった。条件変更を「希望する」業種では、運輸業、製造業、サービス業の順で割合が高い。



(14) 希望する条件変更

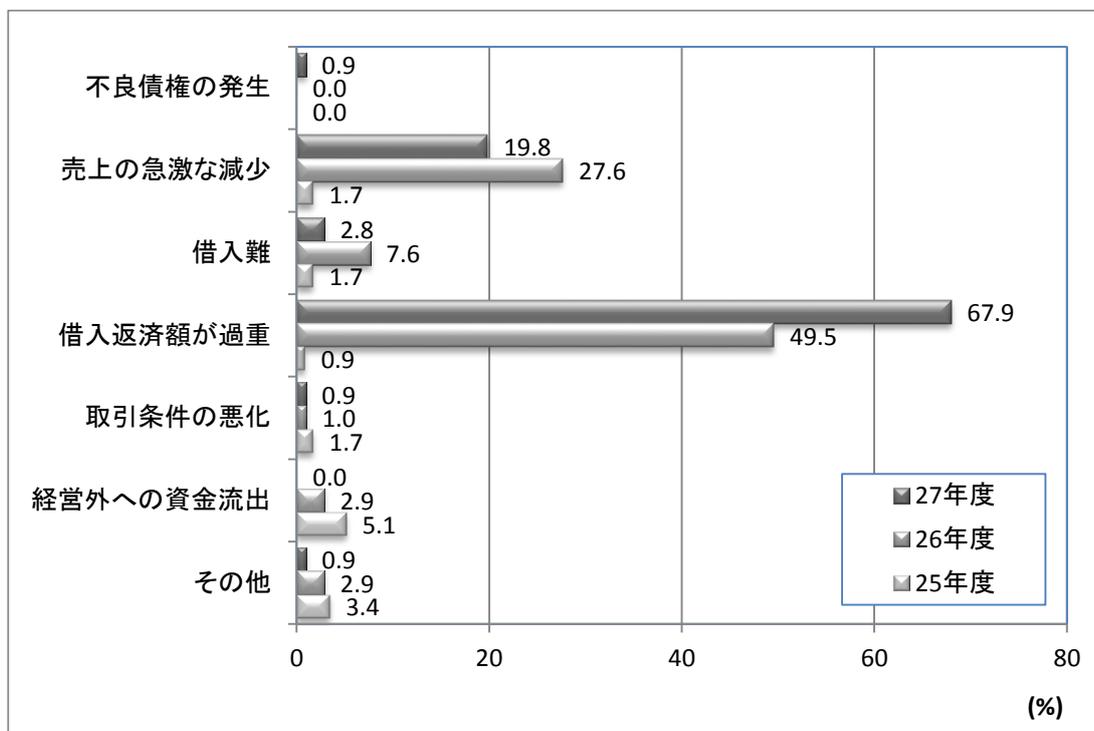
「元金返済の一時据置（猶予）」は11.5ポイント減少の10.4%と低水準となった一方、「返済期間の延長」は6.2ポイント増加の49.1%、「長期資金への切换」は8.3ポイント増加の30.2%だった。

「返済期間の延長」を希望する業種では、飲食・宿泊業、運送業、小売業の順に高い。



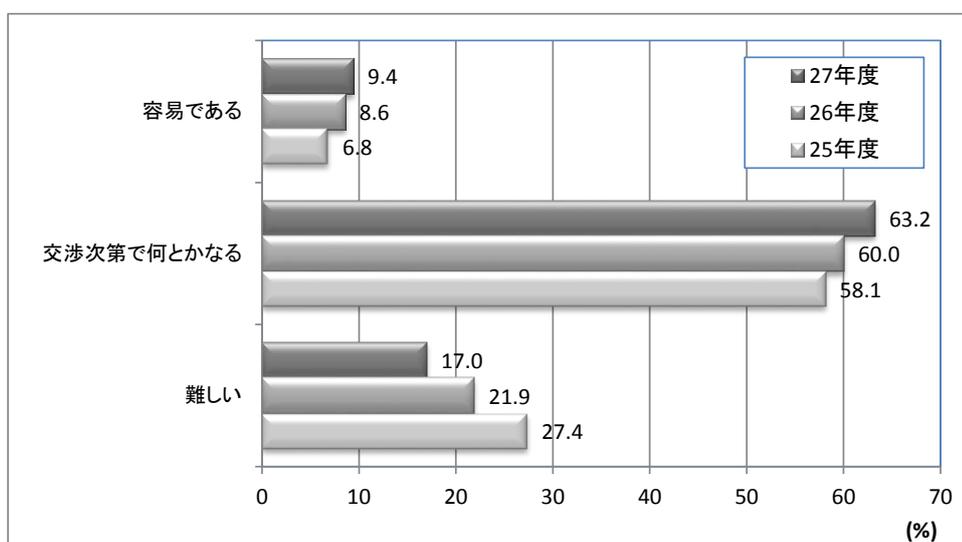
(15) 条件変更を希望する理由

「借入返済額が過重」が67.9%と高水準である。「売上の急激な減少」が19.8%で、条件変更を希望する2大要因になっている。



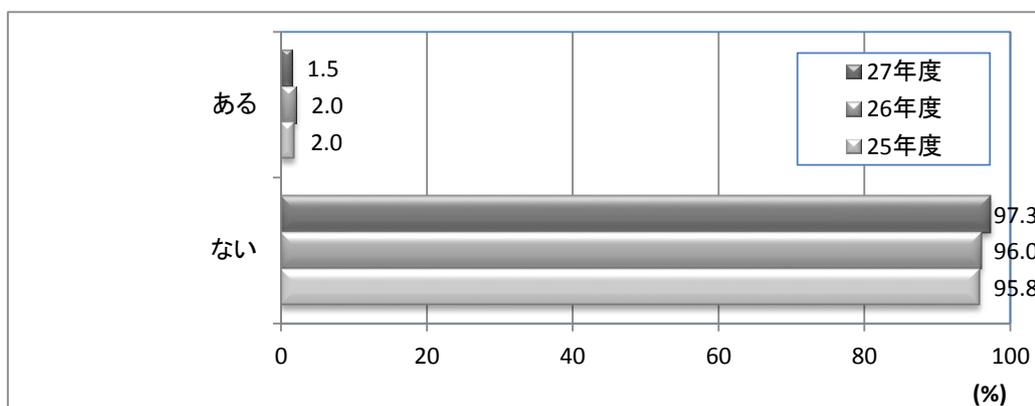
(16) 条件変更の難易度

前回調査と比べ、「容易である」と「交渉次第で何とかなる」の合計は4.0ポイント増加の72.6%となる。「難しい」は4.9ポイント減少の17.0%となった。



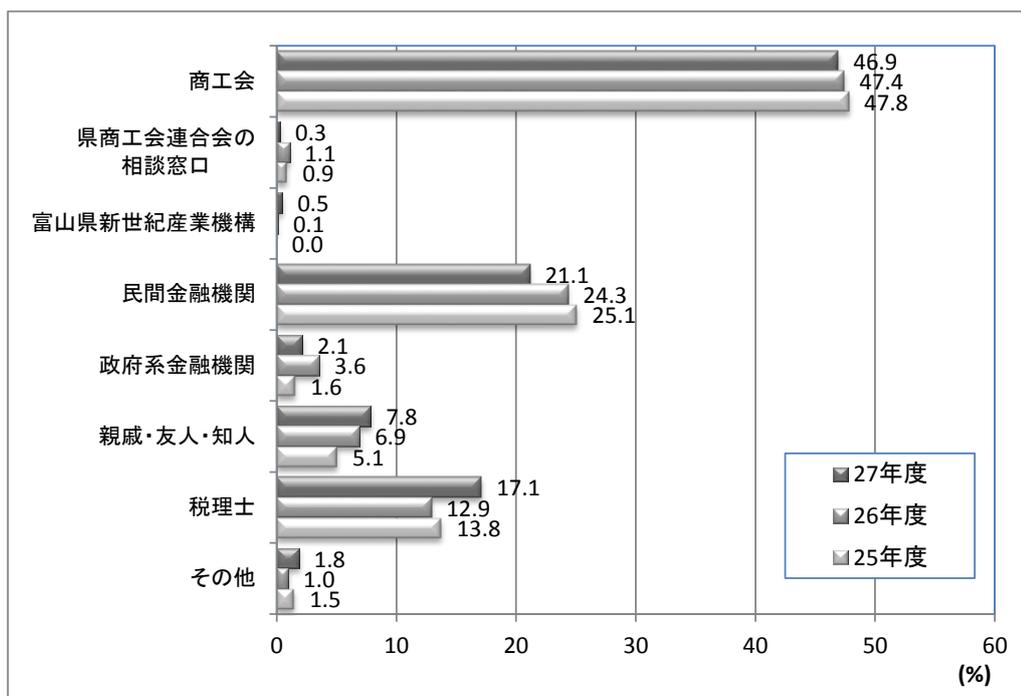
(17) 金融機関からの借入金返還要求の有無

「ある」が1.5%で、前回比0.5ポイント減少。「ない」は97.3%と前回比1.3ポイント増加している。



(18) 経営が著しく悪化した場合の相談先

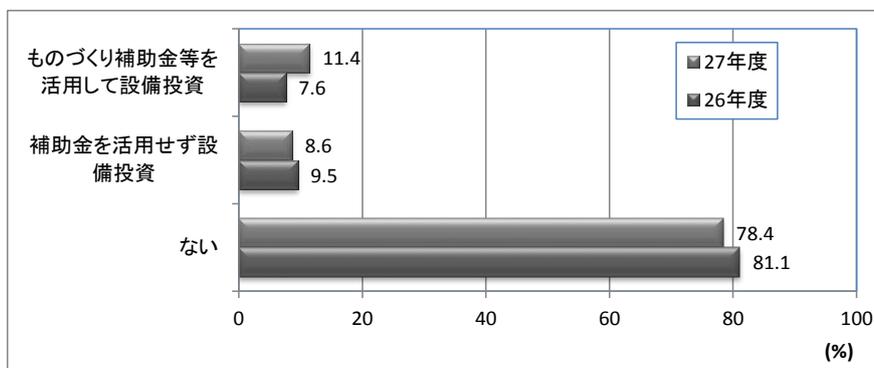
先行きに問題が生じたとき、相談に行くところでは商工会、民間金融機関が多いが前回比でやや減少し、税理士が4.2ポイント増加の17.1%となった。



4 借入計画 等

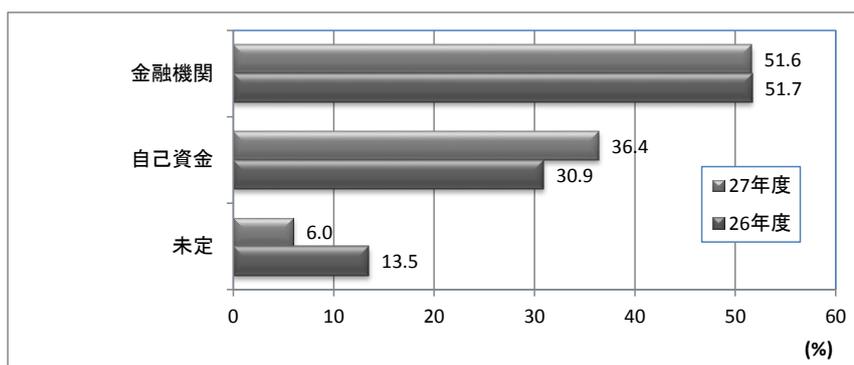
(1) 今後の設備投資計画はありますか。

「ものづくり補助金を活用しての計画あり」が11.4%、「補助金を活用せず計画あり」が8.6%である。「計画なし」は78.4%と高水準であるがやや減少した。



(2) 資金調達の予定について

調達先は51.6%が金融機関だが、自己資金も36.4%と高水準である。

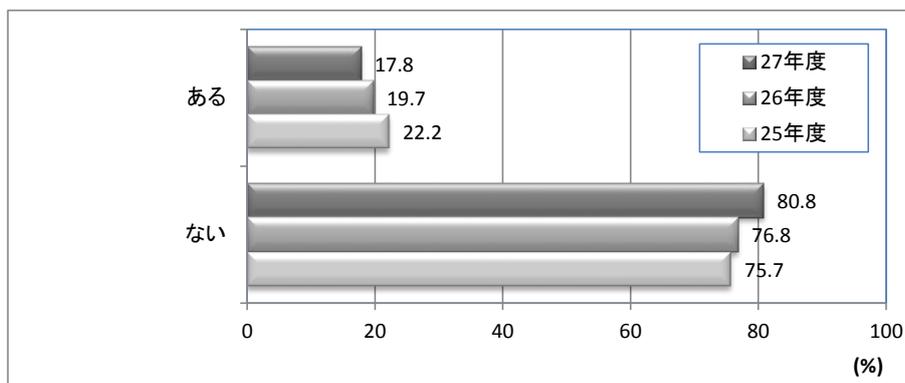


(3) 今後1年の借入計画

「借入計画がある」は前回と比べ、1.9ポイント減少している。

「ある」を業種別にみると、製造業、運輸業が高い。従業員規模別では16～20人、21人以上、11～15人と規模の大きいクラスが30%を超えている。

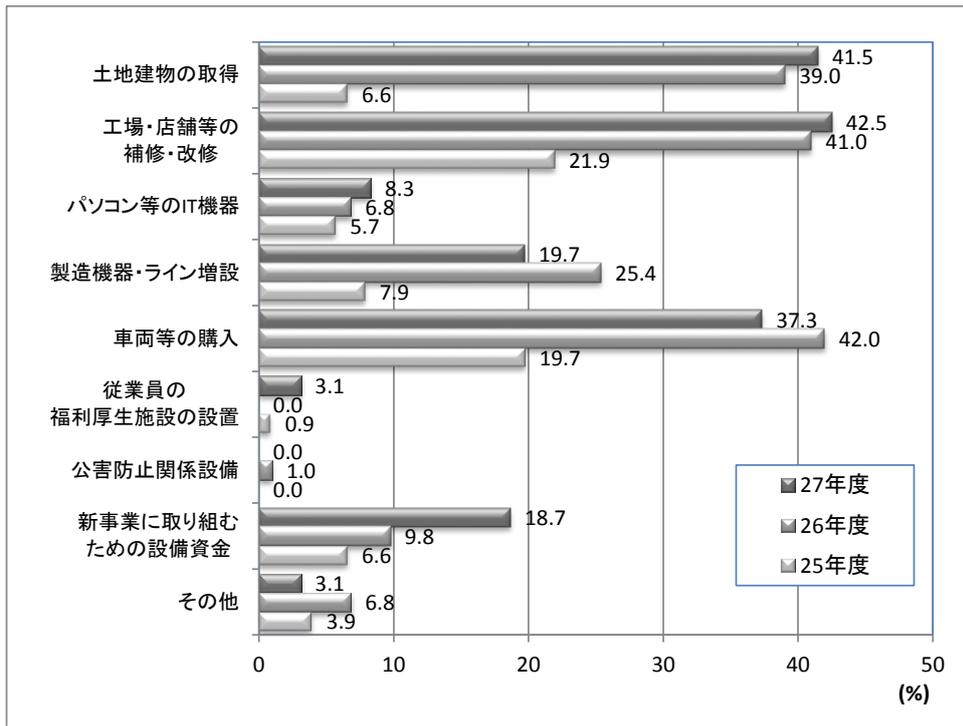
「借入計画がない」は5年連続で増加しており、慎重な姿勢が窺える。



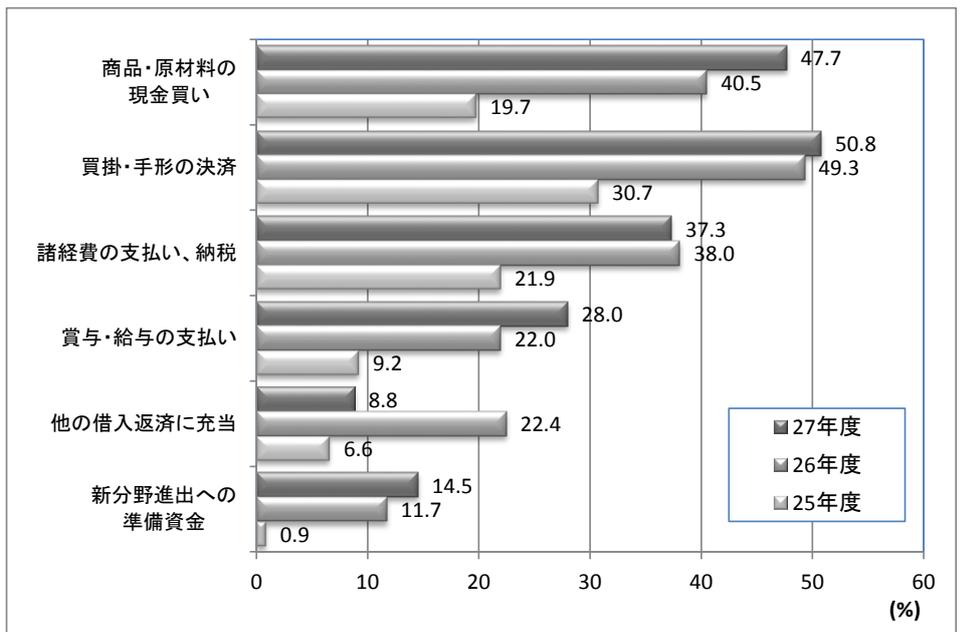
(4) 借入計画がある場合の資金使途（未記入除外、回答数構成比）

「設備資金」の資金使途では、「工場・店舗等の補修・改修」「土地建物の取得」「製造機器・ラインの増設」等の本格的投資が多い。「新事業に取り組むための設備資金」は18.7%で、前回調査比8.9ポイント増加の4年連続増加となった。「運転資金」では「買掛金・手形の決済」、「商品・原材料の現金買い」、「諸経費の支払い・納税」が多い「新分野進出への準備資金」は5年連続増加で14.5%となった。

【設備資金】

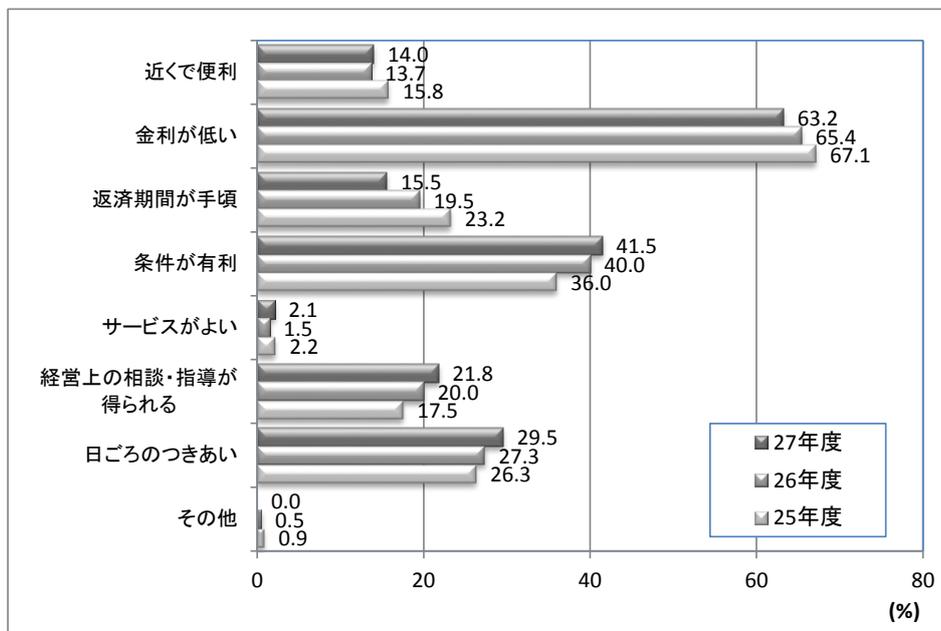


【運転資金】



(5) 借入時の重視条件（2つ以内の複数回答）

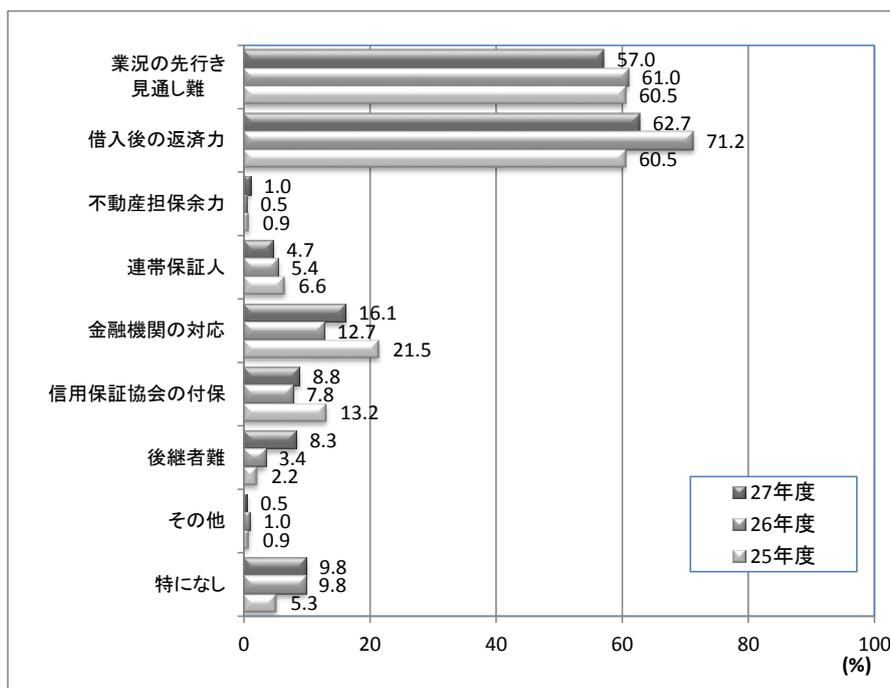
「金利が低い」が63.2%で最も高く、「条件が有利」の41.5%とともに重視されている。間接条件の「日頃のつきあい」「経営上の相談・指導が得られる」は3年連続で増加している。



(6) 借入を考える場合、何が懸念されるか（2つ以内の複数回答）

「借入後の返済力」は62.7%、「業況の先行き見通し難」は57.0%と2大懸念項目だが、前年比ではそれぞれ8.5ポイント、4ポイント減少した。

「後継者難」は4.9ポイント、「金融機関の対応」3.4ポイント増加した。

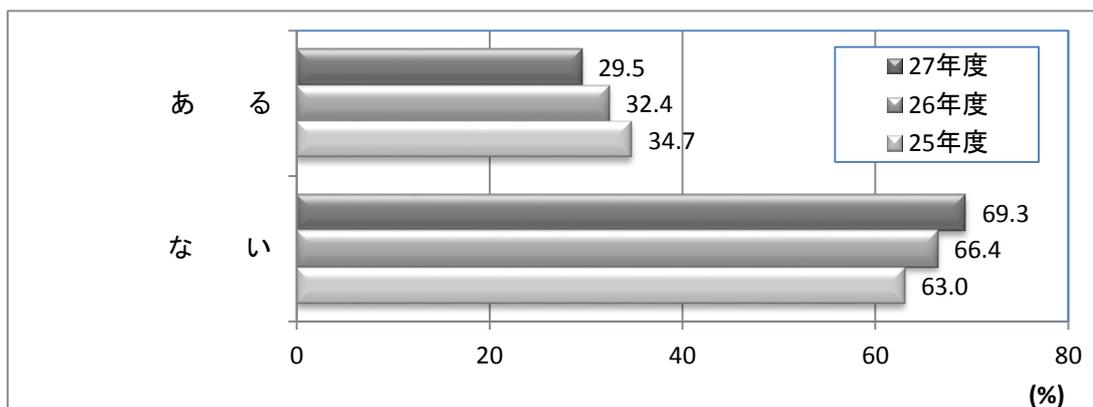


5 融資制度 等

(1) 国・県・市町村の融資制度の過去1年以内の利用状況

前回調査に比べ、「利用がある」割合は2.9ポイント減少しており、「ない」は2.9ポイント増加した。

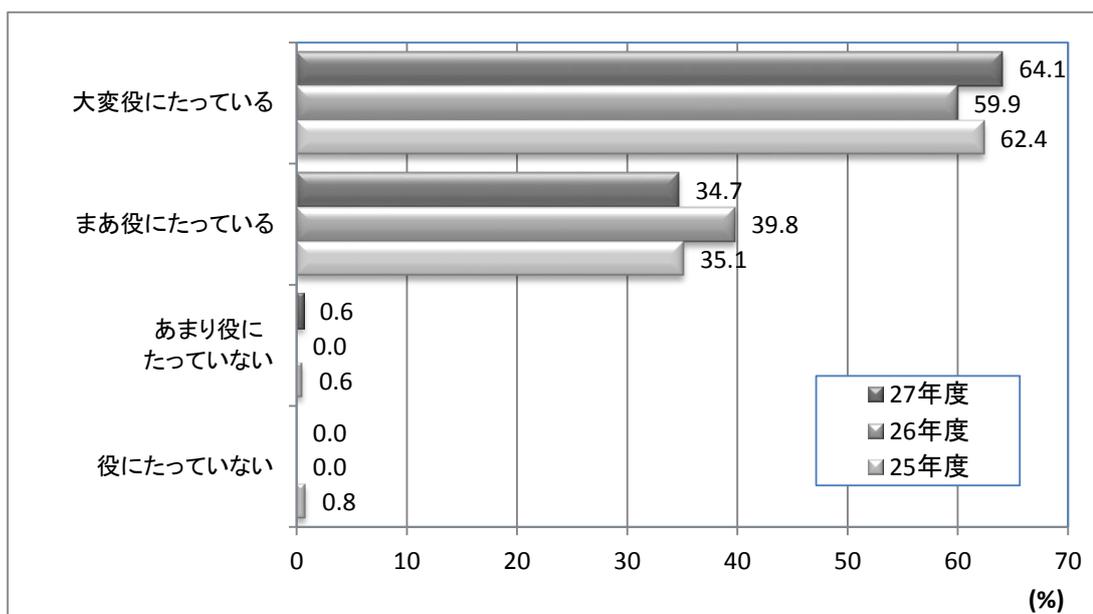
「利用がある」を業種別に見ると、運輸業、卸売業、建設業、製造業の順で高い。一方で「ない」の従業員の規模別では0人、1人の小規模が高かった。



(2) 国や県、市町村の融資制度は経営(資金調達)の役に立っていますか。

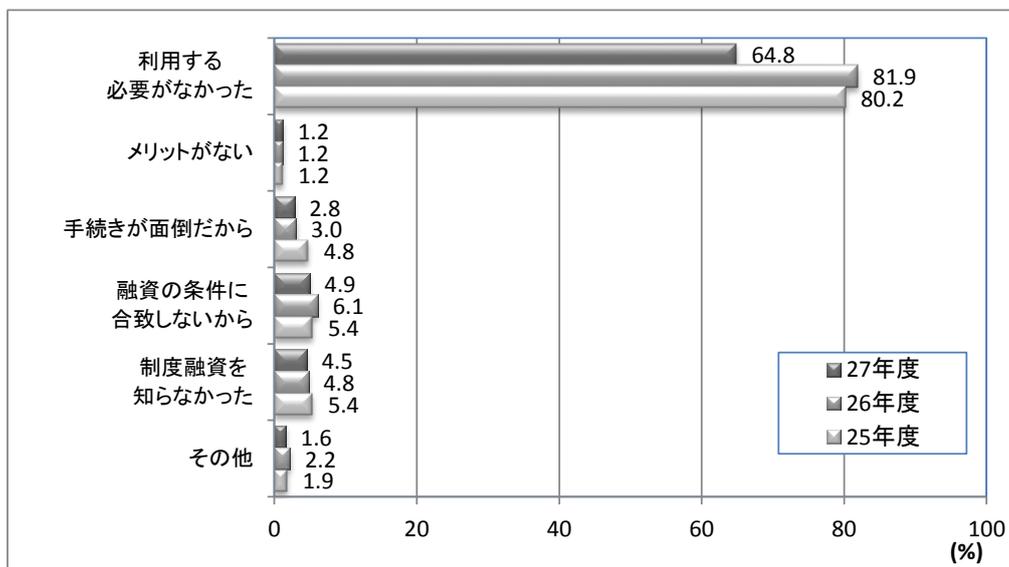
経営に役立っていると回答した企業は、「大変役にたっている」「まあ役にたっている」を合わせて98.8%を占めている。

「あまり役にたっていない」「役にたっていない」は0.6%だった。



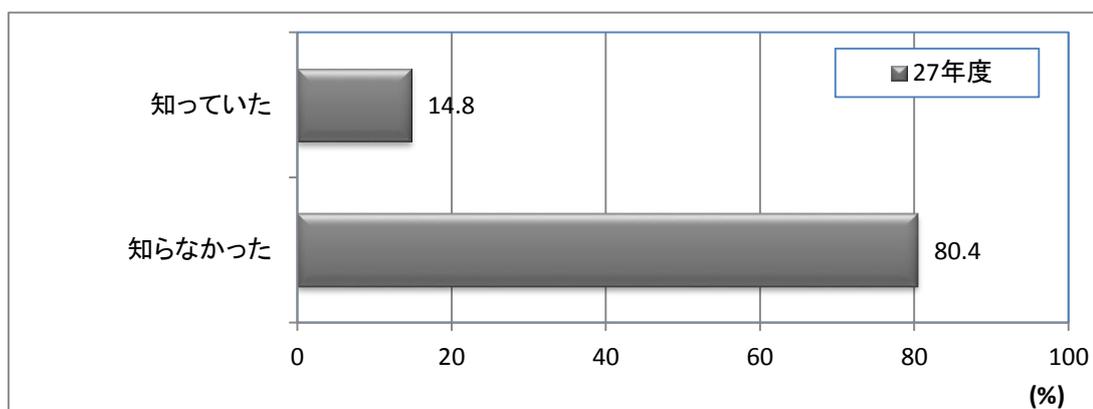
(3) 国や県、市町村の融資制度を利用しなかった理由

前回調査に比べ、理由の大半を占める「利用する必要がなかった」割合が17.1ポイント減少の64.8%になった。また「融資条件合致せず」は1.2ポイント減少、「手続きが面倒だから」は0.2ポイント減少した。



(4) 県の制度融資は平成27年4月から金利0.2%の引き下げたことを知っていましたか。

「知っていた」は14.8%だった。



(5) 国(政府系金融機関)、県、市町村制度融資について、寄せられた意見

全てを記載した。

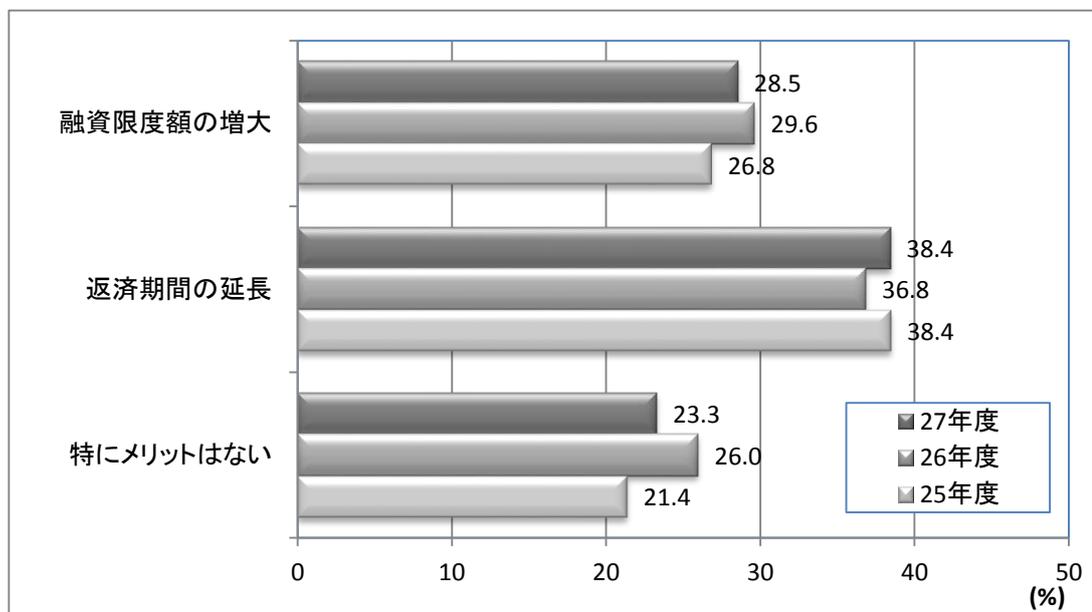
- ・ 家業を継ぐ後継者を応援する制度を願う。
- ・ 新店舗開業の場合 100 万円の補助金が出る市がある。全市で実施出来ないか。
- ・ 借入金の取りまとめで返済を楽にしたい。
- ・ 銀行のような短期資金を使いやすくしてほしい。

- ・ 利子補給制度が増えればいい。
- ・ 資金繰り円滑化のための借換え融資制度の充実。
- ・ 金利の引下げ。
- ・ どのような制度融資があるのか、利用可能なのか、よく分からない。
- ・ より返済しやすい条件をお願いしたい。
- ・ 助成制度の情報が入ってこない。
- ・ お得な情報ほどあまり知られていない。
- ・ 仕組みが分かりにくい。
- ・ 消費増税不況下で融資制度は大変助かる。
- ・ 融資を受け、店の発展に結びついた。
- ・ 大変役にたった。
- ・ 一部の銀行は相談にのらないので、メインを変えたい。
- ・ 開業前、国民生活金融公庫に資金の相談をしたが冷たかった。

(6) マル経融資(日本政策金融公庫の公的融資制度)は、21年4月から融資限度額が1,000万円から1,500万円に、26年度から条件付きで2,000万円に増額になった。返済期間も拡充されていますが、どこがメリットになりますか。

「返済期間の延長」は1.6ポイント増加の38.4%となった。

「融資限度額の増大」は28.5%と1.1ポイント減少した。

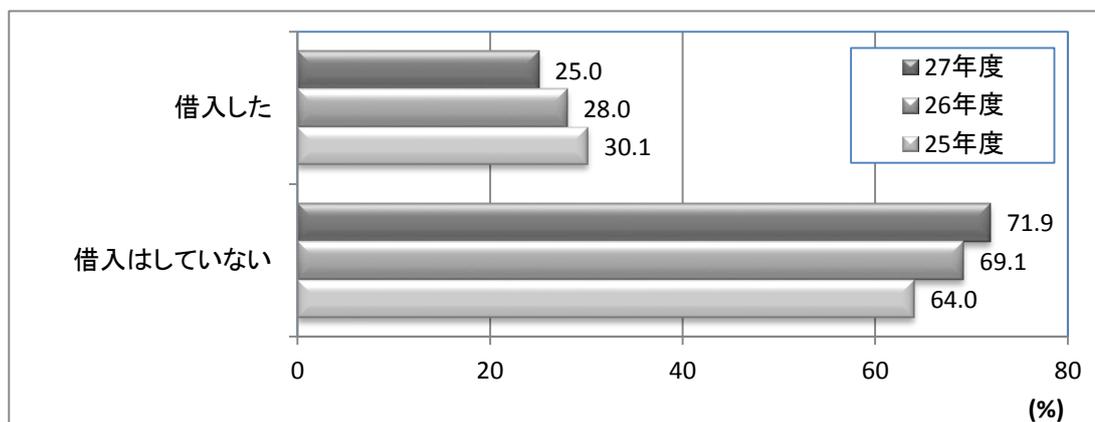


(7) 信用保証協会についておたずねします。

ア、最近1年間に信用保証協会の保証付きで借入をされましたか。

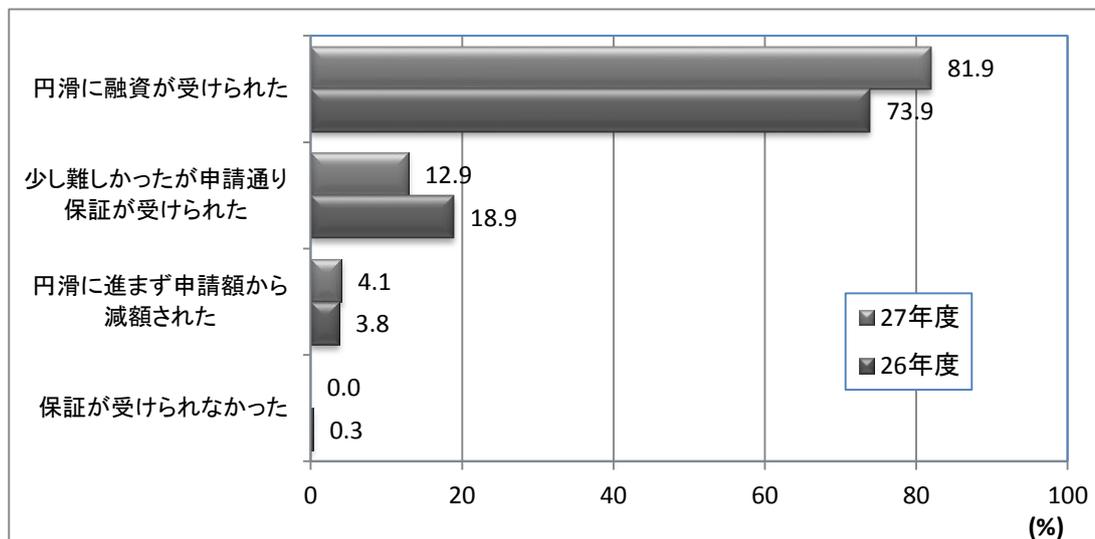
最近1年間に保証付きで借入をした企業は25%で前年比較では3.0ポイント減少、5年連続で減少した。

借入した業種では、運輸業、卸売業、建設業の順で割合が高い。



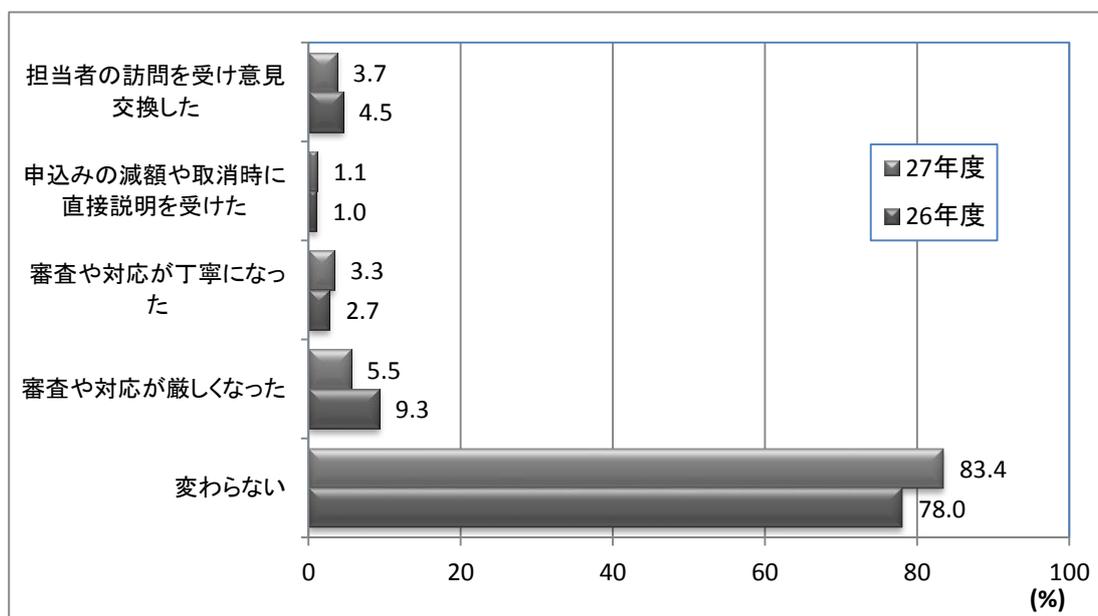
イ、円滑に保証手続きが進みましたか。

「円滑に融資が受けられた」81.9%と「少し難しかったが受けられた」12.9%の合計の94.8%が保証応諾となり、「減額された」「受けられなかった」の合計は4.1%となった。



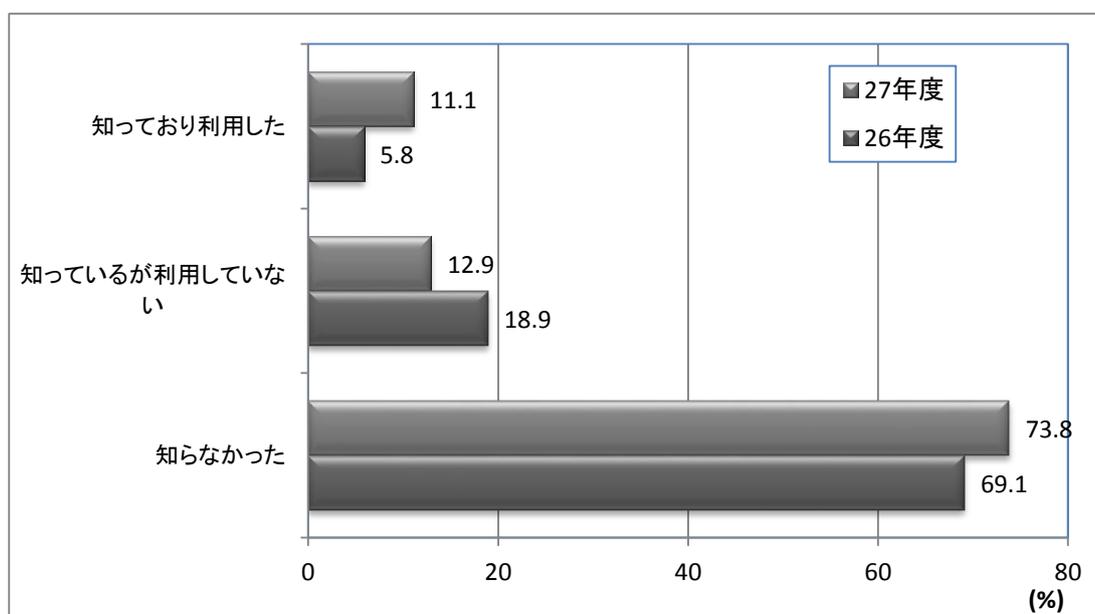
ウ、保証協会の態度に変化がありましたか。

「変わらない」が83.4%と高水準だった。「厳しくなった」は5.5%あった。「意見交換」や「対応が丁寧」など評価意見が7.0%あった。



エ、平成25年10月より「設備資金」の保証料が0.2%割引となっておりますがご存じでしたか。

「知らなかったが」73.8%を占め「知っている」の合計24%を大幅に上回った。



(8) 信用保証制度について、ご意見があれば自由にご記入ください。

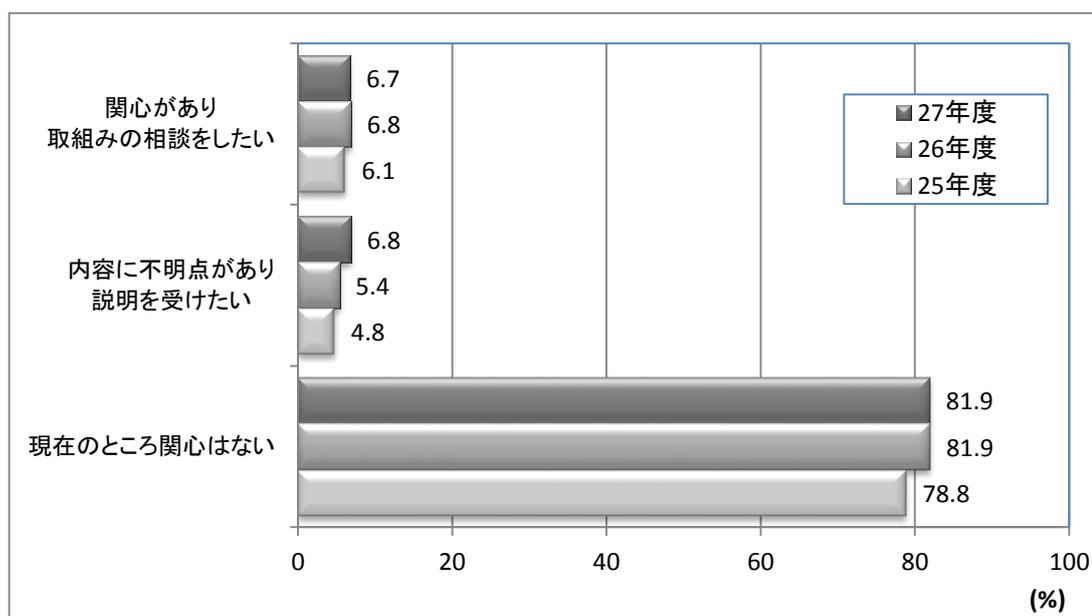
全てを記載した。

- ・前は保証料の半分が市から援助されたが、今はどうなのか。
- ・もつと枠を広げ、低利・長期（10年）に利用出来るように望む。
- ・保証条件、手続きの緩和を望む。
- ・長期資金や返済分の再借入で利用している。
- ・必要のない時でも利用して、関係をつくることにメリットがある。
- ・保証料が高すぎる。（多数あり）
- ・貸すだけで後のフォローがない。
- ・最も借入したい時に、売上減少を理由に減額された。保証手続きが出来なかった。
- ・保証料が高く借入出来ない。
- ・金利が安くても、「保証料別」なのでお得感がない。
- ・次回借入まで6ヶ月あけるのは不便。
- ・対応が遅い。金融機関との連携が悪い。
- ・審査が厳しすぎる。

6 最近の諸制度についておたずねいたします。

(1) 「中小企業・小規模事業者ビジネス創造支援事業」の専門家派遣について

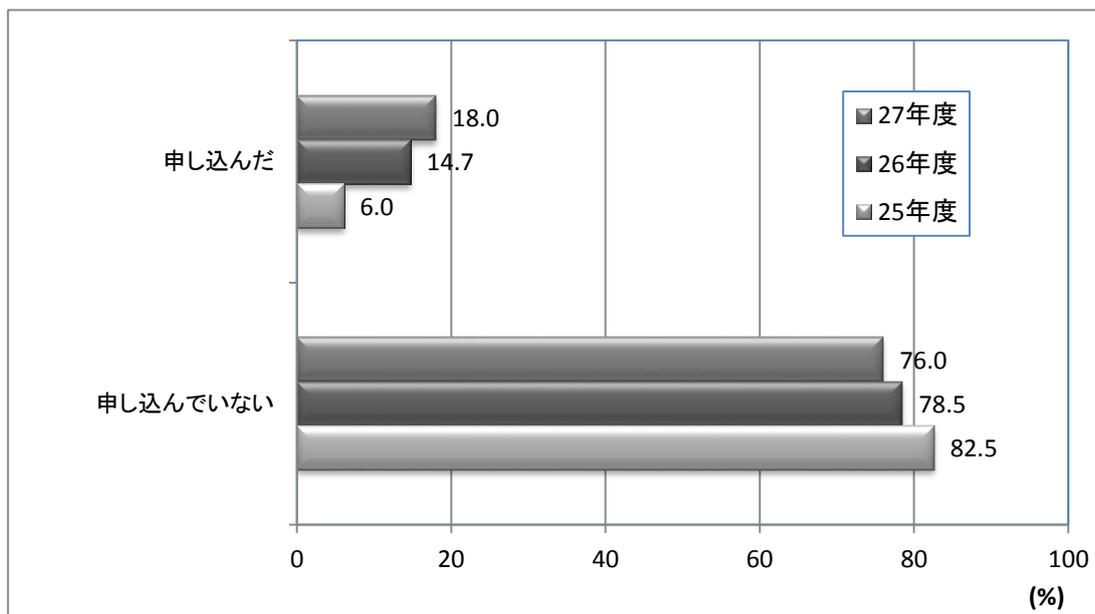
「相談したい」「説明を受けたい」は13.5%と前回比較で1.3ポイント増加した。
「関心はない」も81.9%と前年同水準だった。



(2) 金融円滑化法終了後のことについておたずねします。

ア、円滑化法終了後の融資状況についておたずねします。

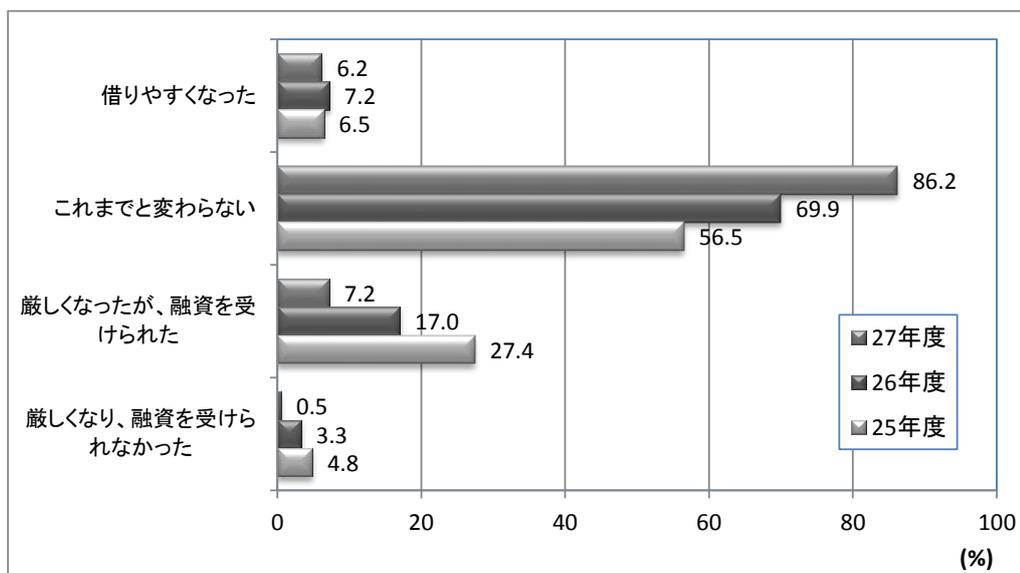
「貸付条件等の変更や新規融資を申し込んだ」は18.0%、「申し込んでいない」が76.0%だった。



イ、金融機関の審査についておたずねします。

「借りやすくなった」と「これまでと変わらない」「厳しくなったが、融資を受けられた」の合計は99.6%で5.5ポイント増加した。

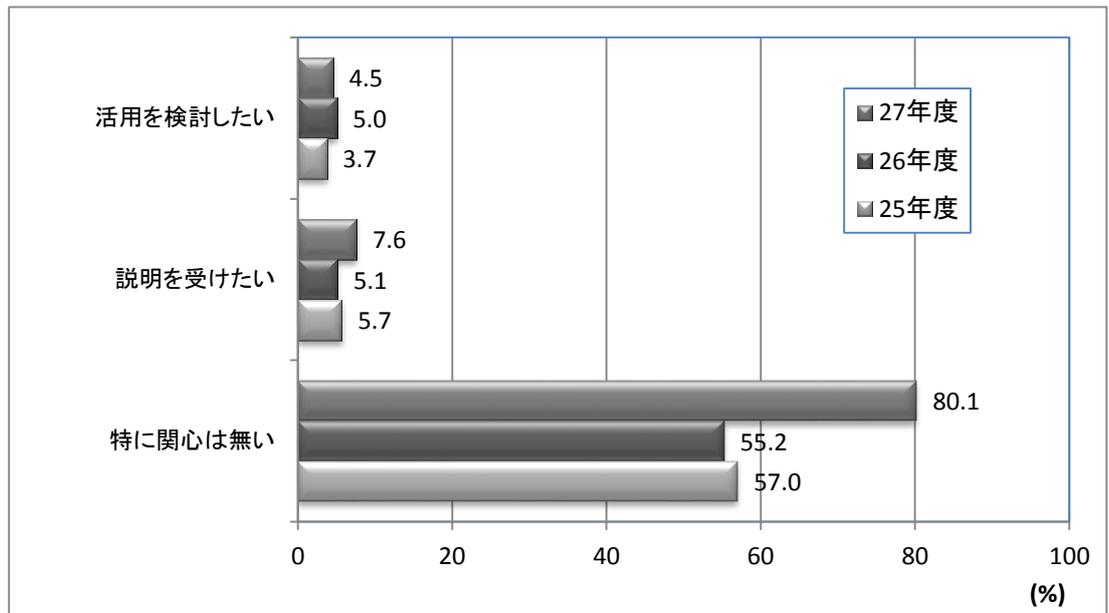
「融資を受けられなかった」は前期比2.8ポイント減少の0.5%まで下がった。



ウ、経営改善計画書策定の場合の支援補助金制度についておたずねします。

「活用を検討したい」と「説明を受けたい」は合計で 12.1%、人員規模別では、16～20 人、21 人以上の順に高かった。

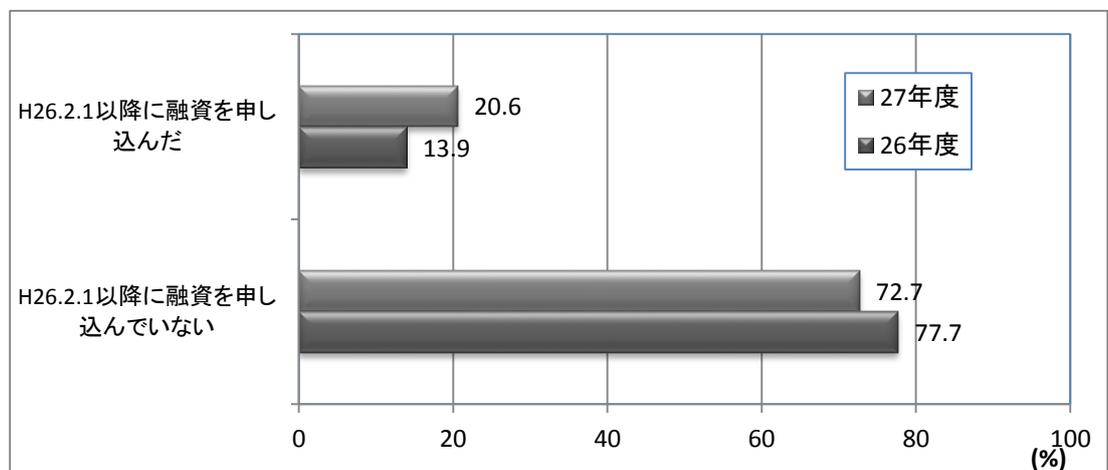
「特に興味はない」が増加した。



(3) 経営者保証のガイドラインが制定され、平成 26 年 2 月 1 日より経営者保証に依存しない融資の促進がすすめられています。

ア、平成 26 年 2 月 1 日以降に融資の申込みをされましたか。

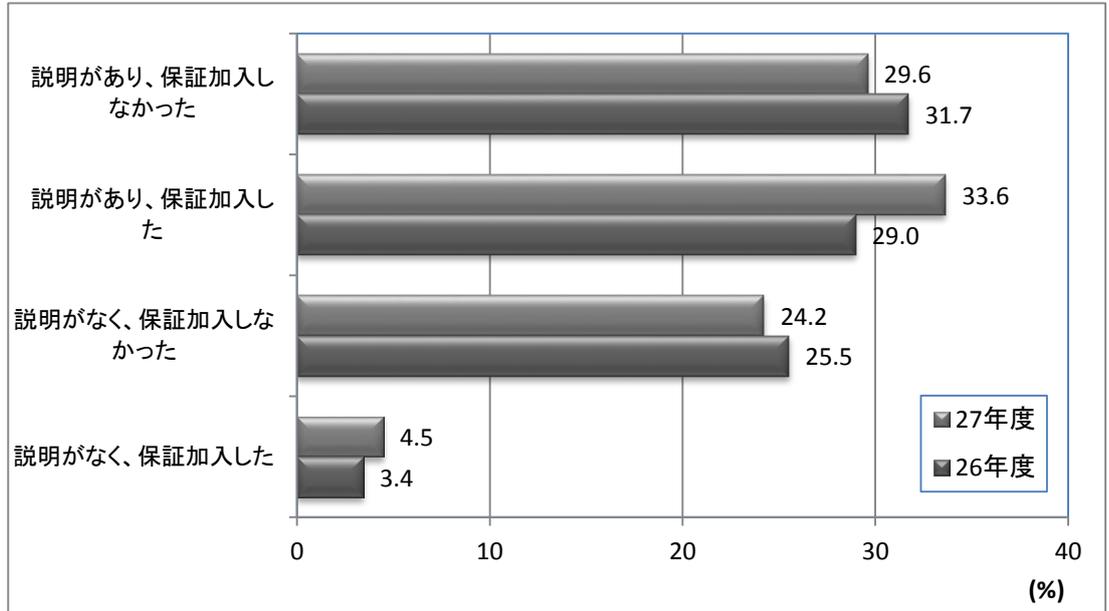
72.7%がまだ融資申し込みをしていないので、まだよく周知されていない状況と考えられる。



イ、金融機関窓口で経営者保証について説明がありましたか。

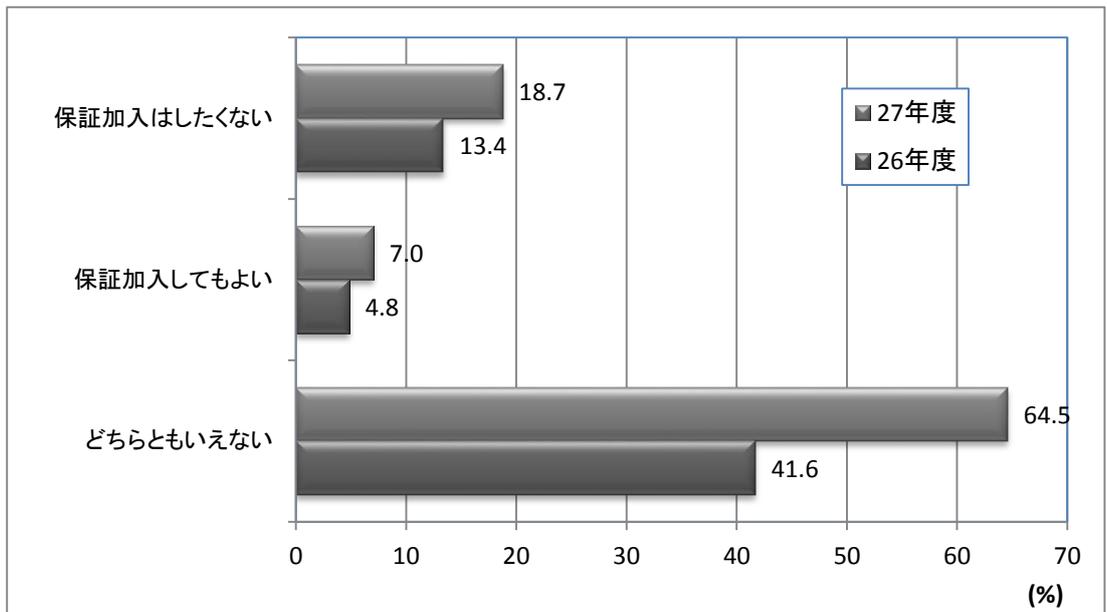
説明ありが63.2%、説明なしが28.7%の状況である。

「保証しなかった」が53.8%で「保証した」の38.1%を上回っている。



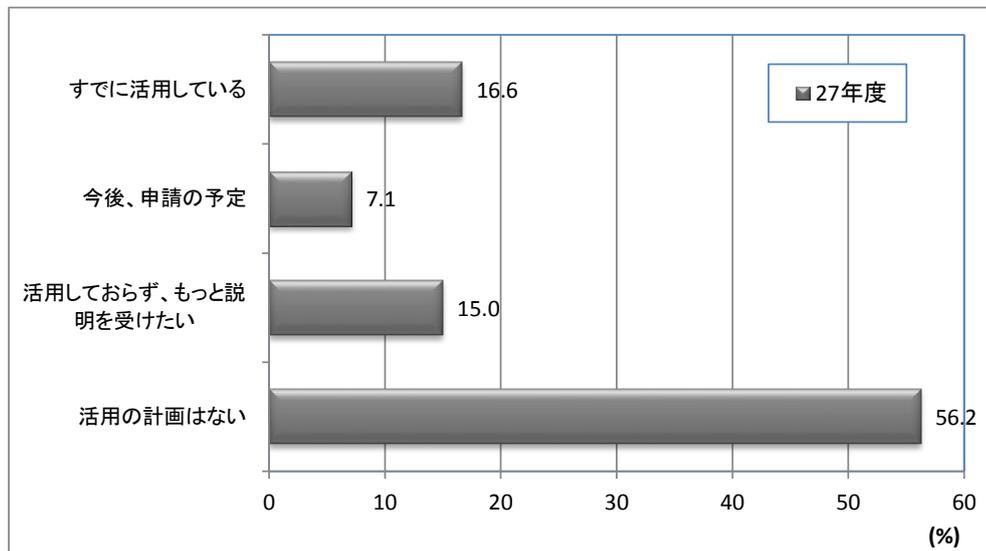
ウ、今後の経営者保証についておたずねします。

「保証加入したくない」が「加入してもいい」を上回っている。「どちらともいえない」が64.5%と高水準である。



エ. 最近の補助金制度について。

「すでに活用している」と「今後、申請予定」の合計で23.7%となった。「説明を受けたい」が15%と高い水準である。



(4) 商工会に期待する金融円滑化支援策について、自由にご記入ください。全て記載した。

- ・人口減少をくい止められる職場を増やす活動を願う。
- ・制度の告知に気を使ってほしい。
- ・昔のように地域のまつりやイベントにも力を入れてほしい。
- ・融資の条件変更から正常に戻った実例を予備軍の企業へ指導してほしい。
- ・ものづくり補助金などの説明をもっと受けたい。もっと活用したい。
- ・支援策等について、詳しく説明を聞きたい。
- ・借入相談をしたい。
- ・わかりやすい説明会を夜に実施してほしい。
- ・街の空洞化対策に駐車場をつくる補助制度があれば有難い。
- ・どうすれば売れるか相談にのってほしい。街全体でも考えねばならない。
- ・プレミアム商品券は地元経営店の元気づけによい。
- ・フットワークが軽いので相談しても楽しい。
- ・地元の店・企業・職人が元気になる町をめざし互いに知恵を出したい。
- ・補助金申請でお世話になっている。
- ・いつもアドバイスを頂き感謝。
- ・小規模事業者には役に立っている。
- ・説明が不足。なぜが多すぎる。
- ・現在は民間金融機関のほうが動きは早く、利用しやすい。
- ・ものづくりの書類を提出したが不採択だった。

以上